

令和3年度 富山国際大学 学務部自己点検評価報告書

I. 概要（現状と課題）

II. 委員会・部会（評価・課題）

1. 学務委員会

（1）学務委員会

（2）教養教育部会

（3）FD推進部会

（4）教職課程委員会

2. 図書館委員会

3. 情報センター運営委員会

4. キャリア支援センター運営会議

5. 国際交流センター運営会議

6. 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム検討委員会

III. 業務運営状況（評価・課題）

1. 教務課業務

2. 図書館業務

3. 情報センター業務

4. 学生課業務

5. キャリア支援センター業務

6. 国際交流センター業務

IV. その他

令和4年3月
富山国際大学 学務部

I. 概 要 (現状と課題)

学務部各部門における令和3年度実施内容については、主にアクションプランで設定した達成目標を含め、実施した内容について取りまとめた。

1. 教務系部門 (教務課、情報センター、図書館)

平成29年度からスタートした副専攻プログラムに関して、本年度もグローバル人材育成プログラム、地域創生人材育成プログラムともに申請者はいなかった。新型コロナウイルス感染症の影響と教育環境の変化に伴う制度設計の乖離により、副専攻プログラムも過渡期を迎えていることも要因と考えられる。令和3年度終了時点では、グローバルで3名、地域創生で2名の修了者を送り出すことができ、今後、制度設計の改編も視野に、引き続きグローバル人材、地域創生人材の育成の支援にあたっていく。

Web シラバス運用も軌道に乗り、今後の更なる積極的な活用が必要で、特に、到達目標と成績評価との定量・定性の関係を分析していくこととなるが、学生への教育活動の指針となる3つのポリシー (ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー) のうち、ディプロマ・ポリシーの可視化を進めるために Web シラバスシステムにおいて各科目のシラバスに割合を記載し、データを蓄積してきた。令和4年度にはグラフ等で学生個人の学修成果を可視化し、よりよい教育への改善を図り、一層の大学の教育の質向上を目指す。

また令和3年度は、学生が自分の現状を把握し目標を具体的に設定するためのツールとしての e ポートフォリオに関しての情報を集めた。これらをもとに、導入への検討を加速化させる。

情報分野では、本年度も文部科学省も推奨している「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」の認定に向けてのカリキュラムを組んだこともあり、就職・教育現場等で必須活用となるパソコンを斡旋し利用促進に努めたところ、令和3年度では新入生全体で167 (現代社会学部88、子ども育成学部79) 台余り購入し使用している。また、情報の高速化に対応するためネットワーク専用線の10Gbps化も図り、これからの大容量のデータにも耐えうる環境の整備元年でもあった。今後は、大容量データを処理できる環境の整備を加速化させていくことになるため、効率的な予算を学園情報教育研究センター内で組み、本学が中心となって情報化を推進する必要がある。

図書館の利用状況は、2020年度は新型コロナウイルス感染予防対策の一環で、一時閉館や入館制限なども行ったこともあり、全般的に貸出冊数も利用率も下降した。2021年度においては、利用推進を働きかけてきたことにより、新型コロナ感染予防対策下ではあったが、利用者は増加した。しかし、新型コロナ感染前の2019年度の状況まで回復していない。また、来館の不具合解消のためと、時代の流れから電子書籍の導入を増加させた。また引き続き、特に東黒牧キャンパスでは図書サークル活動を活性化させ、利用率アップを図っていく予定である。

2. 学生支援部門 (学生課、キャリア支援センター、国際交流センター)

経済的な支援を要する学生への奨学金支援、諸活動入学生に対して文武両道を図るためのGPA(2.0程度)の厳守と厳格な指導を心掛けた。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、アルバイト収入が減少し、経済的に困窮し学業に支障が出ている本学学生を対象に後援会からの支援を受け後援会独自の給付奨学金を2020年に創設し、本年度も実施した。

夢への架け橋助成事業」については、応募件数が平成29年度は8件、平成30年度は16件、令和元年度、11件と、令和2年度は8件、令和3年度11件とここ数年応募総数が安定している。これまでの広く浅くという支援のあり方を、令和2年度はカテゴリー (A30万円コース・B20万円コース・C10万円コース) ごとのコンペ形式に変更し、本年度もコース別にコンペを行った。また、新型コロナウイルス感染防止対策の観点からZOOMによる審査を実施した。

豊かな学生生活を送るための支援活動として、例年、学友会などの活動を教職員が積極的に支援し、スポーツ文化交流会、大学祭などを企画・実施してきたが、新型コロナウイルス感染症の影響より、スポーツ文化交流会は中止となった。大学祭は、両学部ともオンラインで開催した。

キャリアに関する支援では、令和3年度も学生の就職活動はコロナ禍での活動となった。例年、企業の採用担当者を学内に招き、対面で開催している企業研究会だが、令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大 (第6波) を受け、初めてオンライン開催となった。計画当初は、対面での開催を予定していたが、就職活動を控えた学生や企業担当者の方々への感染リスクを考慮し、急遽オンライン開催となった。

国際交流に関する支援では、現代社会学部の留学生へのケアや全学学生の留学をサポートしている。

3. 基本情報

・令和3年度 在籍者数（令和3年5月1日現在）

2021年度富山国際大学在学者数

2021/5/1現在

			男女別数		県内外別数		男女県内外別数				
学部		学科	総数	男	女	県内	県外	男県内	女県内	男県外	女県外
1 年生	現代社会	現代社会	113	71	42	104	9	64	40	7	2
	休学		0	0	0	0	0	0	0	0	0
	子ども育成	子ども育成	104	25	79	100	4	22	78	3	1
	休学		0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合 計		217	96	121	204	13	86	118	10	3
	休学		0	0	0	0	0	0	0	0	0

			男女別数		県内外別数		男女県内外別数				
学部	学科	総数	男	女	県内	県外	男県内	女県内	男県外	女県外	
2 年 生	現代社会	現代社会	116	74	42	106	10	67	39	7	3
	休学		2	2	0	0	0	2	0	0	0
	子ども育成	子ども育成	90	20	70	88	2	19	69	1	1
	休学		0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合 計		206	94	112	194	12	86	108	8	4
	休学		2	2	0	0	0	2	0	0	0

			男女別数		県内外別数		男女県内外別数				
学部		学科	総数	男	女	県内	県外	男県内	女県内	男県外	女県外
3 年 生	現代社会	現代社会	140	87	53	122	18	71	51	16	2
	休学		0	0	0	0	0	0	0	0	0
	子ども育成	子ども育成	103	17	86	98	5	17	81	0	5
	休学		0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合 計		243	104	139	220	23	88	132	16	7
	休学		0	0	0	0	0	0	0	0	0

			男女別数		県内外別数		男女県内外別数				
			男	女	県内	県外	男県内	女県内	男県外	女県外	
学部	学科	総数									
4 年 生	現代社会	現代社会	124	84	40	99	25	69	30	15	10
	休学		0	0	0	0	0	0	0	0	0
	子ども育成	子ども育成	97	20	77	96	1	20	76	0	1
	休学		1	0	1	1	0	0	1	0	0
	合 計		221	104	117	195	26	89	106	15	11
	休学		1	0	1	1	0	0	1	0	0

			男女別数		県内外別数		男女県内外別数				
全学年	学部	学科	総数	男	女	県内	県外	男県内	女県内	男県外	女県外
	現代社会	現代社会	493	316	177	431	62	271	160	45	17
	休学		2	2	0	0	0	2	0	0	0
	子ども育成	子ども育成	394	82	312	382	12	78	304	4	8
	休学		1	0	1	1	0	0	1	0	0
	合 計		887	398	489	813	74	349	464	49	25
	休学		3	2	1	1	0	2	1	0	0

※表内人数には交換留学生を含まない。
※合計には休学者数を含む

・令和3年度 退学者数等（令和4年3月31日現在）

《現代社会学部》

	1年(R3年度)	2年(R2年度)	3年(H31年度)	4年(H30年度)	計
入学者数	113	114	146	127	500
3月末現在在籍者	112	112	136	116	476
留年者数	0	0	1	1	2
小計	112	112	137	117	478
退学者	1	2	9	10	22
退学率	0.88%	1.75%	6.16%	7.87%	4.40%

《子ども育成学部》

	1年(R3年度)	2年(R2年度)	3年(H31年度)	4年(H30年度)	計
入学者数	104	89	99	91	383
3月末現在在籍者	104	89	97	91	381
留年者数	0	0	1	0	1
小計	104	89	98	91	382
退学者	0	0	1	0	1
退学率	0.00%	0.00%	1.01%	0.00%	0.26%

・令和3年度就職内定状況 表内差替え（山田修正）

令和4年5月1日現在

単位:人

学部	性別	学生数	内休学者数	卒業者数	就職希望者	内定者	内定率	未内定者	進学・留学希望者	内進学留学決定者	進学も就職もしない	卒業延期者
現代社会	男	84	0	80	72	72	100.0%	0	3	3	5	4
	女	40	0	40	36	36	100.0%	0	0	0	4	0
	計	124	0	120	108	108	100.0%	0	3	3	9	4
子ども育成	男	20	0	20	17	17	100.0%	0	3	3	0	0
	女	77	1	76	71	71	100.0%	0	5	5	0	0
	計	98	1	96	88	88	100.0%	0	8	8	0	0
合 計	男	104	0	100	89	89	100.0%	0	6	6	5	4
	女	118	1	116	107	107	100.0%	0	5	5	4	0
	合計	222	1	216	196	196	100.0%	0	11	11	9	4

※上記表には、現代社会学部9月卒業生5名（女子2名）を含む。

・令和3年度図書館基本情報

【貸出冊数】

＜東黒牧キャンパス＞

貸出冊数・人数		CARIN利用者区分別貸出冊数・人数より													
2021(令和3)年度		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
大学生 1年	冊数	26	23	83	36	2	2	13	26	19	15	0	0	245	大学生冊数 合計
	人数	23	19	51	26	2	2	11	19	15	14	0	0	182	
大学生 2年	冊数	8	13	4	46	4	2	12	10	6	18	0	0	123	755 大学生人数 合計
	人数	4	6	3	34	2	2	7	7	5	14	0	0	84	
大学生 3年	冊数	13	17	26	68	14	3	11	20	17	13	0	0	202	469
	人数	8	11	17	45	5	2	8	10	8	5	0	0	119	
大学生 4年	冊数	7	7	23	41	5	6	23	36	34	3	0	0	185	
	人数	5	5	10	18	3	2	8	15	16	2	0	0	84	
研究生	冊数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
教員	冊数	29	5	19	21	4	16	8	5	0	2	4	4	117	
	人数	11	1	5	6	1	6	4	2	0	2	3	2	43	
非常勤講師	冊数	1	2	6	0	2	0	0	0	0	0	0	0	11	
	人数	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4	
職員	冊数	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
	人数	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
臨時職員	冊数	2	3	2	1	1	1	13	4	8	5	1	3	44	
	人数	2	2	2	1	1	1	9	4	5	5	1	3	36	
学外者	冊数	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2	
	人数	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2	
合計	冊数	86	71	165	214	32	30	80	101	84	57	5	7	932	
	人数	54	46	91	131	15	15	47	57	49	43	4	5	557	

＜呉羽キャンパス＞ 短大図書館利用者を含む

呉羽キャンパス貸出冊数・人数(子ども育成学部)

CARIN利用者区分別貸出冊数・人数より

2021(令和3)年度		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
大学生 1年	冊数	36	14	32	19	6	7	146	92	58	14	0	0	424	大学生冊数 合計
	人数	17	10	20	14	3	6	94	52	43	7	0	0	266	
大学生 2年	冊数	21	59	104	44	22	27	111	102	152	34	3	0	679	2,451 大学生人数 合計
	人数	10	35	60	23	12	10	53	53	69	17	2	0	344	
大学生 3年	冊数	34	48	96	78	46	29	131	56	52	14	15	19	618	1,220 大学生人数 合計
	人数	17	29	53	38	14	11	70	33	28	7	4	3	307	
大学生 4年	冊数	62	62	81	81	49	29	129	112	97	26	2	0	730	
	人数	31	31	37	37	19	9	49	47	33	9	1	0	303	
教員	冊数	0	12	31	9	3	13	20	9	71	7	19	0	194	
	人数	2	3	10	9	2	7	7	4	6	3	3	0	56	
合計	冊数	153	195	344	231	126	105	537	371	430	95	39	19	2,645	
	人数	77	108	180	121	50	43	273	189	179	43	10	3	1,276	

【入館者数及び開館日数】 ＜東黒牧キャンパス＞

入館者数

※9/30よりセルフ貸出機稼働の為電源を切っている為、10月よりフェリカのカウント数とした。

R3(2021)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	1,087	754	1,178	1,299	509	172	481	502	433	117	3	18	6,553
	1,087	1,841	3,019	4,318	4,827	4,999	5,480	5,982	6,415	6,532	6,535	6,553	

II. 委員会・部会（評価・課題）

1. 学務委員会（案）

（1）学務委員会

【目標】

富山国際大学学務委員会規程第2条に規定する審議内容のうち、令和3年度は主に次の事項を議論した。

- ① プレゼン、レポートループブリックについて
- ② その他（新型コロナウイルス感染予防関係）

【実施内容】

・構成メンバー：

佐藤学務部長、松山学務部次長、高橋(ゆ)教授、堀川教授、繁宮准教授、大平准教授、河崎准教授、金子講師、小比賀呉羽キャンパス事務室事務長、吉村学生課長、酒井教務課長、梶田係長（以上12名）

開催日時・場所・出欠	審議事項	報告事項
【第1回】 令和3年4月28日（水） 16:00～17:30 Zoom会議 出席：12名 欠席：0名	1. 新型コロナウイルス感染関連の欠席届について 2. 第2種奨学生について 3. 2020年度学務部アクションプラン及び自己点検評価について 4. 2021年度全学学務委員会委員担当業務（案）について 5. 2021年度前期保護者懇談会について 6. 実習の基本方針について 7. 2022年度学年暦について 8. 学生団体解散届・同結成願について 9. 2021年度大学祭について 10. その他	1. 教務課からの報告について 2. 学生課からの報告について 3. 学部学務委員会からの報告について 4. その他
【第2回】 令和3年6月2日（水） 13:10～14:50 Zoom会議 出席：12名 欠席：0名	1. 2022年度学年暦について 2. 秋入学可能な2+2の学生ならびに交換留学生の単位認定について 3. 既修得単位認定申請について 4. 2021年度保護者懇談会について 5. 2021年度「夢への懸け橋助成事業」申請一覧について 6. コスモス通り第85号（秋号）の企画等について 7. 学生団体解散届について 8. 学内のメールアドレスの使用状況について 9. レスブリッジ大学交換留学修了に伴う単位認定について 10. 教職課程「領域に関する専門的事項」の科目変更について 11. 新型コロナウイルス感染拡大防止のための活動制限指針について 12. その他	1. 教務課からの報告について 2. 学生課からの報告について 3. 学部学務委員会からの報告について 4. その他
【第3回】 令和3年7月7日（水） 13:10～15:05 Zoom会議 出席：12名 欠席：0名	1. 2021年前期授業アンケートについて 2. 単位認定のあり方について 3. 成人年齢の引き下げについて 4. 学生団体結成願・解散届について 5. 学生団体の結成・解散事項の一部変更について 6. プレゼンテーション等にかかるループブリックについて 7. 大学コンソーシアム富山後期単位互換提供科目について	1. 教務課からの報告について 2. 学生課からの報告について 3. 学部学務委員会からの報告について 4. その他

	8. コロナ禍における県外移動願について 9. 2021 年度「夢への架け橋助成事業」について 10. 大学祭におけるスポンサー募集について 11. その他	
【第4回】 令和3年9月3日（金） 13:10～15:20 Zoom 会議 出席：12名 欠席：0名	1. 9月卒業判定等について 2. 学生の学籍異動について 3. 2021 年度後期オリエンテーションについて 4. 2021 年度後期時間割について 5. プレゼン・レポートのループリックについて 6. 能力特性評価テストについて 7. 振り返りシートについて 8. 2021 年度学生生活アンケートについて 9. 奨励者（I）成績優秀者について 10. 学生団体結成願について 11. 富山国際大学 後援会特別奨学金（新型コロナウイルス対策給付金）について 12. 2022 年度の学年暦（15 週問題）について（継続審議） 13. その他	1. 教務課からの報告について 2. 学生課からの報告について 3. 学部学務委員会からの報告について 4. その他
【第5回】 令和3年9月27日（火） 13:10～15:20 Zoom 会議 出席：12名 欠席：0名	1. 学生の学籍異動について 2. 令和3年度教育の質に係る客観的指標及び私立大学等改革総合支援事業について 3. 保護者懇談会について 4. 2022 年度学年暦について 5. 英語専攻の学生の留学について 6. 2+2 入学者の単位認定について 7. その他	1. 教務課からの報告について 2. 学生課からの報告について 3. 学部学務委員会からの報告について 4. その他
【第6回】 令和3年10月27日（火） 16:00～16:58 Zoom 会議 出席：12名 欠席：0名	1. 2022 年度学生便覧編集方針について 2. 単位取得状況等の情報公開について 3. 学生の振り返りシートについて 4. 2022 年度研究生・科目等履修生募集要項（案）について 5. 後援会奨学金の申込期限延長について 5. 学生団体結成願について 6. その他	1. 教務課からの報告について 2. 学生課からの報告について 3. 学部学務委員会からの報告について 4. その他
【第7回】 令和3年12月1日（水） 13:10～14:40 Zoom 会議 出席：12名 欠席：0名	1. 学籍異動について 2. Web シラバスについて 3. 2022 年度学生便覧について 4. 学生生活アンケートについて 5. 学生団体結成願について 6. その他	1. 教務課からの報告について 2. 学生課からの報告について 3. 学部学務委員会からの報告について 4. その他
【第8回】 令和4年1月5日（水） 13:10～14:25 Zoom 会議 出席：12名 欠席：0名	1. 授業アンケートについて 2. 追再試験の手続きについて 3. 卒業時アンケートについて 4. コスモス通りにについて 5. 卒業記念パーティーについて 6. 卒業アルバム購入について 7. その他	1. 教務課からの報告について 2. 学生課からの報告について 3. 学部学務委員会からの報告について 4. その他
【第9回】 令和4年2月2日（水） 13:10～14:51 Zoom 会議 出席：12名 欠席：0名	1. 学則及び学務系規程の一部改正について 2. 副専攻プログラムについて 3. 大学コンソーシアム富山単位互換科目について 4. 学長賞推薦（案）について 5. 2021 年度全学FD・SD 研修会について 6. その他	1. 教務課からの報告について 2. 学生課からの報告について 3. 学部学務委員会からの報告について 4. その他

【第10回】 令和4年3月2日(水) 13:10～14:54 Zoom会議 出席：11名 欠席：1名	1. 令和3年度卒業認定、進級判定(案)について(追認もあり) 2. 既修得単位認定(案)について 3. インターンシップの単位認定(案)について 4. 副専攻プログラム修了認定について 5. 学生の学籍異動(案)について 6. 2022年度科目等履修生の受け入れについて 7. 令和3年度前期オリエンテーション日程(案)について 8. 2022年度時間割(案)について 9. その他	1. 教務課からの報告について 2. 学生課からの報告について 3. 学部学務委員会からの報告について 4. その他
---	--	---

【評価】

副専攻プログラムも本年度は、グローバル人材育成プログラム3名、地域創生人材育成プログラム2名の修了者を出すことができた。

今後のディプロマ・サブリメントの充実に向けて、ディプロマ・ポリシーの重み付けもシラバスへの入力を導入し、データの蓄積を行い、試行的にディプロマ・ポリシーの可視化をしてみたことは、次の認証評価に向けては大きな前進である。

本年度は、新型コロナウイルス変異株の蔓延はありつつも、感染予防対策にしっかり注力してきたこともあって、授業や課外活動に大きな影響を及ぼす事項等は少なかったことは評価できる。

【課題】

副専攻プログラムに関しては、新型コロナウイルスの影響もあるが、チャレンジする学生が少なくなっていること、制度設計を見直す時期に来ていることもあり、早急に今後の対策を考察する必要がある。

プレゼンやレポートルーブリックについては、まだまだ議論が必要であり、今後の課題となる。

また、ディプロマ・ポリシーに関しては、学修成果の可視化を加速化させ、学生が自分の立ち位置を把握し目標をもって、自分への自信を強められるような学修環境にすべく、eポートフォリオの導入に向けて準備し、将来的にはディプロマ・サブリメントの実施へとつなげていく。

奨学制度については、国の学修支援制度を利用する学生が多く、経済的困窮者に対する本学の独自の奨学金制度のあり方に関しては、引き続き考えていく必要がある。

新型コロナウイルス感染予防対策については、ワクチンが頒布されても、次年度も気が緩まぬよう対策を施し、学生が満足できる修学環境を整えていく。

(2) 教養教育検討部会

【目標】

1. 2021年度及び2022年度の教養教育について

① 引き続き両学部で受講できる教養科目を模索する。

Web講義などで、合同でできる授業の開設ができないか更に検討する。各学部単位においては合同できる授業科目があるのかどうか、その際の問題点や課題の洗い出しを行う。

【実施内容】

・構成メンバー

松山学務部次長・教授(部会長)、佐藤(悦)学務部長、繁宮准教授、大平准教授、小比賀呉羽キャンパス事務長、酒井教務課長、相田教務課係長

・会議内容

開催日時・場所・出欠	協議事項	備考
令和3年6月2日(水) 15:00～15:25 Zoom会議 出席：6名、欠席：1名	1. 部会長の選出について 2. 2021年度教養教育について 3. その他	
令和3年10月6日(水) 16:30～17:30 Zoom会議 出席：7名、欠席：0名	1. 2021年度教養教育について 2. 2022年度教養教育について 3. その他	

令和3年12月1日(水) 14:45～15:15 Zoom 会議 出席：7名、欠席：0名	1. 2022 年度教養教育について ・教養特別講座について ・学部横断科目について 2. その他	
---	--	--

【実績・評価】

昨年度に引き続き、両学部で受講可能な教養科目について検討してきた。コロナ禍の継続影響もあり、Web 講義を加速させることができると判断し、本年度は「ジェンダー論」「心理学」を子ども育成学部の学生も現代社会学部の学生も Web でリアルタイム受講できるよう、ZOOM ミーティングアプリケーションを使って講義を実践したところ、授業アンケートでは概ね好評であった。また、子ども育成学部の「人間と情報」も、現代社会学部の教員が移動せず遠隔で授業を展開したこともあった。

2022 年度に向けては、大学コンソーシアム富山共同授業科目でもある「教養特別講座」において現代社会学部教員と子ども育成学部教員とのオムニバス形式で遠隔授業において実施できるか計画することとなり、少しずつではあるが、前進していることは評価できる。

【課題】

- ① 2022 年度も引き続き両学部で実施されている ZOOM 授業を活用して、両学部で受講できる教養科目の設置の可能性を探る。
- ② 本年度できなかった両学部が受講可能な教養科目について、学生の要望調査等を実施してより明確にする。

(3) FD 推進部会

【目標】

FD は学生への学修支援における教員の教育力向上を図ることを目的としており、今般のコロナ禍の影響で、リモートでできること、またリモートでの授業等を行うにあたっての課題等を共有できる研修や、教育研究を行う上での重要な情報共有すべき内容を設定する。

【実施内容】

・構成メンバー

高橋(ゆ)教授(部会長)、松山教授、繁宮准教授、小比賀呉羽キャンパス事務長、酒井教務課長、相田係長

・会議内容

開催日時・場所・出欠	協議事項	備考
令和3年5月7日(水) メール審議 出席：7名 欠席：0名	1. 部会長の選出について 2. 2021 年度全学 FD 研修会について 3. その他	
令和3年6月2日(水) 15:25～15:35 Zoom 会議 出席：7名 欠席：0名	1. 2021 年度全学 FD 研修会について 2. 各学部の FD 研修会について 3. その他	
令和3年7月12日(水) 16:20～16:43 Zoom 会議 出席：7名 欠席：0名	1. 2021 年度全学 FD 研修会(追加)について 2. その他	
令和3年12月1日(水) 15:15～15:30 Zoom 会議 出席：7名 欠席：0名	1. 2021 年度全学 FD・SD 研修会等について ・令和4年3月の実施方法について ・学部 FD の報告について ・現在までの研修確認について 2. その他	

・研修内容

開催日時・場所・出欠	実施内容
【全学】 令和4年3月16日(水) 14:00～15:30 Zoom ミーティング 【教員参加率：89.7%】 教員出席：35名 欠席：4名 (現社：19名、子ども16名) 職員出席：21名 欠席1名	令和3(2021)年度 第4回富山国際大学FD・SD研修会 ① 労働契約について 子ども育成学部長・教授 宮田 徹 ② 教育研究現場のハラスメントについて 現代社会学部長・教授 大谷 孝行 ③ 個人情報の取扱いについて 学長室長・子ども育成学部教授 彼谷 環 ④ ディプロマ・ポリシーの見える化に向けての取組み 教務課長 酒井 誠
【現代社会学部】	学部FD 項目参照
【子ども育成学部】	学部FD (研究交流センター含む) 項目参照

【評価】

本年度の全体の研修会は、教育現場での様々な事案についての情報共有研修を行った。

教員の任期制に伴う労働契約や、最近のハラスメントの動向、改正個人情報保護法に基づく大学の対応について、そしてディプロマ・ポリシーの到達度がわかるようにするための取組みについての共有を行った。

【課題】

次年度については、特にディプロマ・ポリシーの可視化を重点にしつつ、様々な観点から研修の企画立案し、参加率を高める研修内容にしていく。

(4) 教職課程委員会

【目標】

教育職員免許状取得の所要資格を得させるために必要な本学の教職課程の運営について審議し、教職課程の履修と実習実施に向けた資格ごとの計画立案・事前事後指導、及び履修科目の単位認定を円滑に実施させることを目標とする。本年度は、特に福井大学連合教職大学院との連携の検討をはじめ、情報通信技術を活用した教育の理論及び方法の科目新設等の教職課程変更にかかる内容について詰めていく。

【実施内容】

・構成メンバー

辻井教授(委員長)、宮田教授、彼谷教授、松山教授、石倉准教授、小比賀呉羽キャンパス事務室事務長、酒井教務課長

・会議内容

開催日時・場所・出欠	協議事項	報告事項
令和3年5月14日(水) 8:38～9:03 ZOOM 会議 出席：7名 欠席：0名	1. 委員長の選出 2. 教職課程「領域に関する専門的事項」の科目変更について 3. その他	1. 「情報通信技術を活用した教育に関する理論および方法(仮称)」の認定について 2. 教職課程の自己点検・評価及び全学的に教職課程を実施する組織に関するガイドラインについて
令和3年5月14日(水) 9:00～9:50 ZOOM 会議 出席：7名 欠席：0名	1. 「情報通信技術を活用した教育に関する理論および方法(仮称)」の認定について 2. その他	1. 福井大学教職大学院の連合教職大学院について 2. その他
令和3年7月20日(火) 9:00～9:50 ZOOM 会議 出席：7名 欠席：0名	1. 「情報通信技術を活用した教育に関する理論および方法(仮称)」の認定について 2. 連合教職大学院について 3. その他	1. 上越教育大学教職大学院について 2. その他

令和3年8月4日（水） 15:00～15:50 ZOOM 会議 出席：7名 欠席：0名	1. 「情報通信技術を活用した教育に関する理論および方法（仮称）」の認定について 2. その他	特になし
令和3年9月8日（水） 10:00～10:50 ZOOM 会議 出席：7名 欠席：0名	1. 「情報通信技術を活用した教育に関する理論および方法（科目仮称:教育と情報）」について 2. その他	1. ベネッセ「ミライシード」について 2. 上越教育大学大学院について 3. 福井大学教職大学院の連合教職大学院について
令和4年1月12日（水） 15:00～15:08 ZOOM 会議 出席：7名 欠席：0名	1. 教職課程にかかる学則の一部改正について 2. その他	特になし

【評価】

令和3年度の小学校教員採用試験合格者については、48名（既卒者9名含む）となり現役合格率としては95.2%となった。また、公立小学校教諭の就職については、現役生で37名、既卒者9名となり、学部起ち上げから総計251名の教諭を送り出したことになる。

免許取得に関しては、小学校教諭一種免許状取得者66名、幼稚園教諭一種免許状取得者68名と、概ね取得希望者の希望に添った結果を得ることができた。

また、「情報通信技術を活用した教育に関する理論および方法」にかかる教職課程の新規科目「教育とICT」も無事設定でき、次年度からの実施体制が整った。

【課題】

当面の課題としては、福井大学連合教職大学院との連携に関して推進しなければならない。

また、2023年度には現在の保育士養成課程における科目を教職課程にかかる科目に位置づけることになる。そのため、それまでには、教科を担当する教員の実績が、確かなものである必要があり、周知の徹底を図らなければならない。

その他小免許取得者は、今年度は66名を数えた。しかし、進路は別にあるがとりあえず免許を取得しておこうという安易な考えの学生も相変わらずいる。小学校教員としての有資格者として、資質、力量が不足する学生が増加することに避けなければならない。

そのため、教員免許取得希望には一定の制限を設けることも視野に入れる必要があると思われる。また、教職課程に進んだ学生の学びのため模擬授業や実習のあり方を、幼稚園・保育教諭養成も含めた課題として、新たな実習協力校・認定こども園の開拓や継続的に教育実習の経験を蓄積できる体制づくりが必要である。

本学が富山県教育に一定の人員を占めるに至った現在、教員養成から採用後の数年間、どのようにして教師力を向上させていくか、今後は大学の支援が一層求められると思われる。

さらに教職履修カルテの電子化の実現に向けた取り組みも加速させる必要がある。

2. 図書館委員会

【実施計画】

図書館委員会規程に基づき、次のアクションプランに繋がる内容を審議する。

- ・ より一層の図書館利用推進（定量的な数値の把握）
- ・ 学生に対する推薦図書予算配分の有効的な見直し
- ・ 電子書籍の有効利用推進
- ・ メディアセンターとしての図書館の構築
- ・ 図書館利用推進を行う学生サークルの運営サポート
- ・ 定期購読誌の有効的な新陳代謝

【実施内容】

- ・ 構成メンバー

川本館長、堀川教授、堀江教授、大藪教授、本江准教授、一井講師、酒井教務課長、市六主査

(紀要編集委員：宮田教授、大平准教授、高尾准教授、Pavliy 准教授、岩崎講師)

・会議内容

開催日時・場所・出欠	協議・報告事項
【第1回】 令和3年4月23日(金) 16:30～17:20 ZOOM 会議 出席：8名 欠席：0名	1. 2020 年度図書館の自己点検報告書について 2. 2021 年度図書館のアクションプランについて 3. 2020 年度紀要発行状況について 4. 2021 年度紀要発行スケジュールについて 5. 図書館運営の現状について 6. 館長質の有効利用について 7. 2021 年度前期学生向け教育用・新刊図書の選定について 8. その他
【第2回】 令和3年5月28日(金) 16:30～17:20 ZOOM 会議 出席：7名 欠席：1名	1. 2021 年度前期学生向け教育用・新刊図書の提出状況について 2. 2021 年度紀要第1号投稿意向調査記入票の提出状況について 3. 図書館の利用状況について 4. 退職された子ども育成学部教員の研究室貸出図書の返却について 5. その他
【第3回】 令和3年6月25日(金) 16:30～17:20 ZOOM 会議 出席：6名 欠席：2名	1. 2021 年度前期学生向け教育用・新刊図書の提出状況について 2. 図書館の利用状況について 3. 退職された子ども育成学部教員の研究室貸出図書の返却について 4. 来年度図書館購入雑誌の見直しについて 5. その他
【第4回】 令和3年7月30日(金) 16:30～17:10 ZOOM 会議 出席：6名 欠席：2名	1. 2021 年度紀要第1号投稿意向調査記入票の提出状況について 2. 来年度図書館購入雑誌の見直しについて 3. 図書館の利用状況について 4. 子ども育成学部の退職された教員の研究室貸出図書の返却について 5. その他
【第5回】 令和3年8月27日(火) 16:30～17:00 ZOOM 会議 出席：6名 欠席：2名	1. 2021 年度紀要第1号の発行スケジュールについて 2. 2021 年度後期学生向け教育用・新刊図書について 3. 図書館の利用状況について 4. 子ども育成学部の退職された教員の研究室貸出図書の返却について 5. 図書館システムの更新について 6. その他
【第6回】 令和3年10月1日(金) 16:30～17:00 ZOOM 会議 出席：7名 欠席：6名	(全学委員、学部紀要委員) 1. 2021 年度富山国際大学紀要第1号原稿の提出状況について 2. 2022 年度外国雑誌の契約について 3. 図書館の利用状況について 4. その他
【第7回】 令和3年10月29日(金) 16:30～17:00 ZOOM 会議 出席：5名 欠席：3名	1. 2021 年度富山国際大学紀要第1号の発行について 2. 2022 年度外国雑誌の契約について 3. 2022 年度和雑誌の購入について 4. 子ども育成学部の退職された教員の研究室貸出図書の返却について 5. その他
【第8回】 令和3年11月26日(金) 16:30～17:00 ZOOM 会議 出席：5名 欠席：3名	1. 富山国際大学紀要投稿規程の見直しについて 2. 2021 年度富山国際大学紀要第2号の発行について 3. 2022 年度図書館購入和雑誌の見直しについて 4. 子ども育成学部の退職された教員の研究室貸出図書について 5. 2022 年度の図書館予算について 6. その他
【第9回】	1. 2022 年度の図書館予算について

令和3年12月24日（金） 16:30～17:00 ZOOM 会議 出席：7名 欠席2名	2. 2021 年度富山国際大学紀要第2号について 3. 選定図書について 4. 富山国際大学図書館における国立国会図書館「図書館向けデジタル化資料送信サービス」利用内規について 5. その他
【第10回】 令和4年1月28日（金） 16:30～17:00 ZOOM 会議 出席：5名 欠席：2名	1. 2022 年度の図書館予算について 2. 2021 年度富山国際大学紀要第2号について 3. 図書館の利用促進について 4. その他
【第11回】 令和4年2月25日（金） 16:30～17:00 ZOOM 会議 出席：10名 欠席：3名	（全学委員、学部紀要委員） 1. 2021 年度富山国際大学紀要第2号について 2. 国立国会図書館「図書館向けデジタル化資料送信サービス」の申請状況について 3. 図書館の利用促進について 4. 退職された教員の除籍状況について 5. その他
【第12回】 令和4年3月29日（金） 16:30～17:00 ZOOM 会議 出席：5名 欠席：3名	1. 2021 年度富山国際大学紀要第2号について 2. 国立国会図書館「図書館向けデジタル化資料送信サービス」の申請状況について 3. 図書館の利用促進について 4. 退職された教員の除籍状況について 5. 2022 年度前期学生向け教育用・新刊図書の選定について 6. その他

【評価】

本年度も紀要の作成にあたっては、図書館委員会と併せて紀要編集委員会を実施し、募集から試読、リバイス、編集、発行までの一連の作業を実施した。本年度は10月発行の第1号は、現代社会学部で論文2編、研究ノート1編、子ども育成学部で論文1編、研究ノート1編、また3月発行の第2号は、現代社会学部で論文2編、研究ノート1編、子ども育成学部で論文3編、研究ノート1編が掲載された。

2021年度に掲げたアクションプランに関する実行結果を記述する。まず、定量的な利用状況の把握に関しては、毎月集計を行い、遅滞なく関係者に報告した。また、利用促進のためのSNSを活用した大学コンビニとの連携を開始した。学生に対する推薦図書の予算配分に関しては、専攻の枠内を超えた予算の運用を行うことにより、担当教員の利便性向上したと思う。予算の範囲内で電子書籍の購入に努めたが不十分であり、電子書籍整備に関して、メディアセンターとしての図書館の構築に関しての具体的なスキームを作成する必要がある。図書館利用推進を行う学生サークルの運営サポートを行うために予算を確保し、活動（「TUINS Book Café」など）に関して大学HPで紹介してサポートした。2021年度は定期購読誌の有効的な新陳代謝を行えたので、教員の新規購読要望が実現できた。アクションプラン外では、退職教員保管の図書の除籍を実行し、除籍処理のした図書の有効利用を推進できた。

【課題】

今後の図書館の在り方として、これまでの実績を踏まえ、次年度に向けて次の課題の解決に向けて委員会を運営する。

- ・ より一層の図書館の有効利用推進（定量的な数値把握）
- ・ 電子書籍の有効利用推進
- ・ メディアセンターとしての図書館の構築
- ・ 地域図書館との連携推進
- ・ 過去の退職教員保管の図書の整理推進（呉羽キャンパス）

3. 情報センター運営委員会

【実施計画】

情報センター規程に基づき、予算策定期間に、情報センター運営委員会を実施し、センター運営について協議する。また、学園情報教育研究センターと連携を取ることを目的とし、教育研究員および担当教職員を構成メンバーに加えた運営委員会の開催を諮る。

【実施内容】

・構成メンバー

学園情報教育研究センター：

高木 センター長（学長）、

上坂 次長（現代社会学部教授）、

新森 教育研究員（現代社会学部教授、情報センター長）、

高尾 教育研究員（現代社会学部准教授、情報センター）、河野 教育研究員（現代社会学部准教授）、

松山 教育研究員（子ども育成学部教授、情報センター運営委員）、中島 SE、井上 SE

情報センター運営委員会：

岩崎（子ども育成学部講師）、教務課 酒井課長、情報センター担当 宮森

令和3年8月25日以降メンバー：

教務課 堀井主査

令和4年2月16日以降メンバー：

教務課 毛利係長、幸藤主事、小西教育研究員

・会議内容

開催日時・場所・出欠	協議事項
令和3年5月28日(金) 9:00～10:00 4号館421室・Zoom会議 出席：10名 欠席：1名	1. 4月から学園情報教育研究センターにシステムエンジニア(SE)2名が常駐、大学と短大のサポート業務内容について 2. 情報センターは学園情報教育研究センターと一体となって活動し、会議効率化の観点から運営委員会をSEサポート進捗状況に関する会議と兼ねて実施していく方針の報告。 3. 基幹ネットワーク10Gbps化事業に進捗状況の報告とネットワーク接続環境に関する検討。 4. 事務作業効率化のワークフローシステム構築(Kintone)とスケジュール共有化(Google Workspace)に関する検討と開始予定。 5. 本格的なTeams利用に向けたFD・SD研修会実施報告。 6. 図書館システムの業者選定に関する報告。
令和3年6月25日(金) 9:00～10:15 4号館421室・Zoom会議 出席：11名 欠席：なし	1. 基幹ネットワーク10Gbps化事業：NTTによる光ファイバー敷設の遅延、および、SINET6移行に関する報告。 2. アクセスポイントおよびプロキシ設定の調整によるネットワーク接続障害の回避について。 3. Google Workspaceによるスケジュール共有状況に関する報告。 4. kintoneの状況。 5. 情報セキュリティ規程について 6. Zoomライセンスのオーナー変更について
令和3年7月30日(金) 9:00～10:25 4号館421室・Zoom会議 出席：11名 欠席：なし	1. DHCP枯渇問題やWi-Fi接続等ネットワーク接続障害への対応 2. 学園共通SSIDに関する検討 3. ウイルスバスターコーポレートエディションサーバ関連 4. 学園全体でのLine利用環境の整備 5. 大学祭HP用WordPressの導入について 6. 文部科学省のサイバーセキュリティ研修について
令和3年8月25日(水)	1. ウイルスバスターコーポレートエディションサーバ更新完了報告

9:00～11:05 4号館421室・Zoom会議 出席：11名 欠席：なし	2. 新図書館システムに関する報告 3. 停電時の大学ホームページアクセス不能への対応等 4. 呉羽キャンパス E館のパイプシャフト温度計測 5. Office365機能（Teams, Stream等）活用について 6. kintoneを使った休暇申請プロトタイプ開発に関する報告 7. 基幹ネットワーク 10Gbps 化事業進捗状況
令和3年9月24日(水) 9:00～10:00 4号館421室・Zoom会議 出席：11名 欠席：なし	1. 学内でのLine接続環境について 2. DDoS攻撃について報告と対策の検討 3. iOSの学内updateに関する報告 4. kintoneのワークフロー調査 5. 情教研センターの予算方針 6. 短大のWi-Fi接続環境について
令和3年10月25日(月) 10:50～11:45 Zoom会議 出席：12名 欠席：なし	1. IT化に関する高木センター長からの報告 2. ファイアウォール設定に関する報告 3. メールサーバのクラウド（Office365）移行について 4. 子ども育成学部における教育とICT推進について （Chromebook、Office365、幹旋ノートPC仕様含む） 5. 呉羽キャンパスにおけるキャッシュレス化について
令和3年12月6日(月) 10:50～11:45 Zoom会議 出席：11名 欠席：1名	1. 情報センター活動報告 2. 欠席届の電子化に向けた検討 3. 基幹ネットワーク 10Gbps 化事業進捗状況 4. Apple Macbook等のWi-Fi接続問題 5. 大学施設貸出における外部者のネットワーク接続について
令和3年12月27日(月) 10:50～11:23 Zoom会議 出席：9名 欠席：3名	1. 2022年度大学幹旋ノートPCに関する報告 2. 情報センター活動報告 3. 子ども育成学部でのChromebook調達に関する報告 4. E館4階プロジェクターの陳腐化問題
令和4年1月31日(月) 10:50～11:35 Zoom会議 出席：11名 欠席：1名	1. 情報センター活動報告 2. 情報センター規程の改正 3. 欠席届の電子化 4. 呉羽キャンパスでのLineアプリ接続問題の状況調査 5. Chromebook設定と使用アカウント作成報告 6. 実習・インターンシップ等活動記録電子化の希望について
令和4年2月16日(水) 9:00～10:40 Zoom会議 出席：15名 欠席：なし	1. 卒業式のYouTubeライブ配信について 2. 子ども育成学部学生懇談会からの各種要望の報告 3. 呉羽キャンパス電気設備定期点検に伴う停電対応について 4. 学園事務職員のtiiアカウントへの移行について 5. 学生のノートPCのWindows11へのアップグレード対応
令和4年3月30日(水) 9:00～10:20 Zoom会議 出席：12名 欠席：3名	1. 情報センター活動報告（支出負担行為伺書の電子化） 2. Office365卒業生アカウントの扱いについて 3. Zoom接続障害 4. Free-Wi-Fi整備に関する報告

【評価】

学園全体としてのネットワーク環境再整備について討議し、従来の運用内容については情報センター担当業務を着実に果たし、問題なく運用されている事が確認された。

呉羽キャンパスにおいて、情報センターからの出張サービスを継続実施し、学生・教職員へのサポート体制は安定しており、呉羽事務室と連携し、予約による出張サポート、急を要する場合は、電話やメールによるサポートを実施している。呉羽キャンパスにおけるネットワーク接続に関する問題点については、短大との連携の必要性を踏まえて、情報教育研究センター兼務メンバーが連携をとり検討が進められている。

子ども育成学部では、小学校の教育環境の変化に伴う情報処理演習が必要不可欠となっていることへの対応策の検討が進められている。

【課題】

学内でのノートPCのみならず、スマートフォンやタブレット等モバイル機器の増加する中、基幹ネットワーク 10Gbps 化事業によって、Wifi 環境は着実に向上しているが、利用者への ICT 教育を一層充実していく必要がある。

4. キャリア支援センター運営会議

【実施計画】

キャリア支援センターに関する諸問題について検討することを目的として開催しており、令和3年度はコロナ禍のため、必要に応じて Zoom を利用したオンラインによるリモート会議を開催した。

【実施内容】

- ・構成メンバー：高橋センター長（現代社会学部）、石倉センター次長（子ども育成学部）
佐藤（綾）委員（現代社会学部）、湯委員（現代社会学部）、一井委員（現代社会学部）
室林委員（子ども育成学部）、岩崎委員（子ども育成学部）、杉本委員、吉村委員、毛利委員、
山田委員
- ・会議内容

開催日時・場所・出欠	協議事項
令和3年5月13日(木) 12:30～13:00 Zoom 会議 出席：9名 欠席：2名	議事 (1) 審議事項 ① 令和3年度合同企業訪問事業（大学コンソーシアム事業）について ② 令和3度「企業・事業所・大学講演会」について (2) 報告事項 ① 2020年度 就職内定状況について ② 現代社会学部キャリア支援委員会について ③ 子ども育成学部キャリア支援委員会について (3) その他 ・就活イベントについて
令和3年11月8日(月) メール審議 出席：11名	議事 (1) 報告事項 ① 2021年度 富山国際大学 企業・事業所・大学講演会について ② 2021年度 富山国際大学 学内企業研究会日程について (2) 報告事項 ① 2021年度 就職内定状況について ② 就職活動イベントの案内について (3) その他 ① 富山県インターンシップ推進協議会 第2回運営部会の報告について ② 令和4年度予算要求について

【評価】

令和3年度もコロナ禍の影響のため、対面からWEB会議となった。回数は少なかったが、キャリア支援センターの運営には大きな支障がなく、現代社会学部ではセンター長を中心に課員と協力して就職希望者に対する就活支援が功を奏し就職率は100%であった。また、子ども育成学部についても、教員採用試験、公立保育士試験、社会福祉士試験をはじめとする様々な分野で実績を残すことができた。ただし、「企業・事業所・大学講演会」及び「学内企業研究会」はコロナ禍によりオンライン開催となり、特に「学内企業研究会」については、開催2週間前に急遽対面からオンラインに変更となったため準備期間が短かったが、無事に開催・終了した。

【課題】

会議の日程調整が難しく、現代社会学部は全学と会議を分ける必要がなく、統合を検討する必要がある。

5-1. 国際交流センター運営会議

【目標】

本学の国際交流に関する事項について、教職員による協議を行う。

【実施内容】

・構成メンバー

渡部国際交流センター長、福島国際交流センター次長、大藪教授、高橋（哲）教授、湯教授、堀川教授、M. フランク准教授、パブリー准教授、吉村課長、水野主査、安村国際交流センター学生支援員（計11名）

・会議内容

開催日時・場所・出欠	協議事項
令和3（2021）年 5月6日（木）16:20～ 17:30 ZOOM 会議 出席：10名 欠席：1名	審議事項 1. 留学生の奨学金受給者推薦について 2. 秋入学の留学生受け入れについて
令和3（2021）年 5月27日（木）16:20～ 17:30 ZOOM 会議 出席：9名 欠席：2名	審議事項 TOEIC IP オンラインテストの実施について
令和3（2021）年 6月24日（木）16:30～ 17:30 ZOOM 会議 出席：9名 欠席：2名	審議事項 1. 令和3年度の奨学金受給者推薦について 2. 秋入学の交換留学生について 報告事項 1. TOEIC IP オンラインテストの実施方法などについて 2. 本学学生対象の TUINS English Camp について
令和3（2021）年 7月29日（木）16:30～ 16:50 ZOOM 会議 出席：10名 欠席：1名	報告事項 1. 編入学試験（2＋2）受験結果について 2. TOEIC IP オンラインテストの申し込み状況について 3. TUINS English Camp 2021 のプログラムについて
令和3（2021）年 9月2日（木）16:30～ 16:30 ZOOM 会議 出席：11名 欠席：なし	審議事項 1. 後期の海外留学・海外研修プログラム（2022年2～3月予定）の実施について 2. 2021年度文部科学省 学習奨励費（月額48,000円×6か月）の受給者候補の決定 3. 日本学生支援機構（JASSO）2022年度海外留学支援制度（協定派遣と協定受入）への応募について 報告事項 1. 交換留学生の入学辞退について 2. TUINS English Camp 2021 実施結果について 3. TOEIC のオンラインテスト（8月9日～15日）の受験者数について 4. 留学生の学外活動（スピーチ交流会参加）について
令和3（2021）年 9月29日（水） メール審議	審議事項 2022年度国際ロータリー米山奨学生候補者推薦について
令和3（2021）年 10月1日（金） メール審議	審議事項 2022年度中島平和財団奨学生候補者推薦について

令和3（2021）年 10月8日（金） メール審議	審議事項 2022年度国際ロータリー米山財団奨学生追加1名候補者推薦について
令和3（2021）年 11月4日（木） メール審議	審議事項 1. 春休み以降の短期・長期留学、海外研修等解禁について 2. 留学生対象の研修旅行について 報告事項 中国人学生向け寄付金の使途について
令和4（2022）年 2月14日（月） メール審議	審議事項 米ミズーリ州立大学への長期留学について
令和4（2022）年 2月21日（月） メール審議	審議事項 長期留学学生に提出を求める誓約書（「新型コロナウイルス感染症の影響下における渡航にかかる誓約書」）について
令和4（2022）年3月 22日（木）15:00～16:20 ZOOM会議 出席：9名 欠席：2名	審議事項 1. オリエンテーションの内容、役割分担について 2. TOEIC の新たなオンライン教材の導入について 3. TOEIC IP テストの次年度実施スケジュール 4. 中国人留学生への寄付金の使用ルール 5. 留学生向け異文化研修 6. 2022年度海外留学・海外研修オリエンテーション 報告事項 留学生（受け入れ）に関する情報共有

【評価】

ZOOM会議およびメールにて審議したが、円滑に運営ができた。

新型コロナウイルス感染症対策の影響により、2021年度のイベントの殆どが中止となった。また、日本人学生の海外留学も3月に入り実現し、アメリカへ6名が留学した。コロナ禍の中、危機管理対策としてコロナ対応の誓約書も必要となり作成し活用した。

【今後の課題】

- ・外国人留学生受入れ増加策の検討
- ・留学・海外研修派遣学生増加策の検討
- ・留学成果の検証と留学前後の教育改善の検討

5－2. 国際化推進委員会会議

【実施計画】

富山国際大学の国際化を推進することを目的とし、富山国際大学国際化推進委員会を原則2か月に一度開催する。

【実施内容】

- ・構成メンバー：高木学長、大谷現代社会学部長、宮田子ども育成学部長、彼谷学長室長、佐藤学務部長、渡部国際交流センター長、福島国際交流センター次長、村上教授、伊藤准教授、吉田事務部長、石黒課長、酒井課長、吉村課長、小比賀事務長
- ・会議内容

開催日時・場所	議題事項
2021年5月26日（金） 16:30～17:00 ZOOM会議	審議事項 1. 2021年度秋入学留学生受け入れについて 2. その他

	報告事項 1. 国際交流センター運営会議議事録 (第1回5月26日 ZOOMによる)
2021 年 7 月 28 日(水) 16:30～17:10 ZOOM 会議	審議事項 1. 2021 年度夏季休業中の海外派遣事業中止について 報告事項 1. 交換留学生受け入れについて 2. 2+2 編入学生受け入れについて 3. English Camp 実施について 4. TOEIC IP オンラインテスト実施について

【評価】

会議は、地域連携推進会議開催の日時に併せ、状況報告と今後の方針等についての審議が行われた。決められた事柄について、国際交流センターが実施を行った。国際交流に関する事項の審議等が全学的な意思統一の下、組織的に重要な取り組みとして実施されていたが、コロナ禍により海外交流等を目的とした事項の推進協議が難しくなっている。

【課題】

新型コロナウイルス感染症が収束した時点で、積極的に学生の海外留学を推進させたい。引き続き、海外留学や国際交流に興味のある学生確保に結び付ける必要がある。

6. 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム検討委員会

【実施計画】

文部科学省が推進する「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」の認定制度推進にも絡み、本学内でも DX 教育の推進を図るべく、検討委員会を立ち上げた。本年度は、現在開講している科目についての学内での評価、また外部からの評価も踏まえて、より一層充実したカリキュラムが組めるよう検討する。

【実施内容】

・構成メンバー

佐藤（悦）教授（学務部長）、松山教授、新森教授、彼谷教授、河野准教授、大谷（友）准教授、岩崎講師、酒井教務課長、堀井教務課主査

・会議内容

開催日時・場所・出欠	協議・報告事項
令和3年9月27日(月) 10:00～11:00 Zoom 会議 出席：8名 欠席：0名	1. 2021 年度数理・データ・AI 科目のカリキュラム表の確認について 2. 2021 年度数理・データ・AI 関係前期科目検証(授業アンケート)について 3. 2022 年度教職課程に導入予定の「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」について 4. 2022 年度数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度の申請書作成工程等について 5. 2021 年度数理・データ・AI にかかる自己点検評価について
令和4年3月31日(木) 13:00～14:00 Zoom 会議 出席：9名 欠席：0名	1. 2022 年度数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度の申請書作成について 2. 2021 年度数理・データ・AI にかかる自己点検評価（外部評価）について 3. その他

【評価】

本年度から数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度申請に向けて稼働しはじめた委員会ではあるが、本委員会、今後の Society5.0 を担う人材育成に向けたカリキュラムなどを提案、構築できる機能を果たすような、成長が期待できるものとなった。

【課題】

次年度早々の申請に向け調整を図る必要があり、またリテラシーレベル申請もさることながら、応用基礎レベルへの同時申請も視野に入れながら進めていく必要がある。

Ⅲ. 業務運営状況（評価・課題）

1. 教務課業務

（1）教育課程並びに履修に関すること

【実施計画・内容】

教学部門の根幹業務に関わる、学則・カリキュラム整備、学生便覧・講義要綱の作成、履修登録と出欠管理について、学生サービスへのサービス低下につながらないよう、学生に常にわかりやすくバックアップできるよう改善しながら業務遂行していく。

また、令和3年度も両学部のカリキュラム実施のフォロー、副専攻プログラムの運用に伴うアフターフォロー、及び退学勧告等の具体的な運用を行う。

【評価・課題】

令和3年度は、現代社会学部にあつては本年度改定された「国際化の推進」と「情報化の推進」に力点をおき、「教養科目」、「基盤科目」、「専門科目」の3層構造となったカリキュラムを運用しはじめ、改定された子ども育成学部にあつては教職課程再課程認定に伴うカリキュラムが進行しはじめ、それぞれの学部の特性を念頭にフォローを行ってきた。

副専攻プログラムについては、修了予定対象者がグローバル人材育成プログラムでは3名、地域創生人材育成プログラムでは2名であった。

本年度は、新型コロナウイルス感染予防対策の観点からの履修に関して対応に迫られたが、特に遠隔授業となった際は、教員・学生のためのフォローにかなりの時間を費やして、教授・学修環境の不満につながらないよう努めた。

（2）授業時間の配当及び休講、補講に関すること

【実施計画・内容】

時間割表作成、休講・補講案内・掲示、レポートの受付・整理、学期末試験の編成、発表業務等については、常に教員と密に連携を取りながら業務を遂行していく。

【評価・課題】

時間割、休講・補講などの案内については、ホームページからアクセスするポータルサイトを活用して案内し、また新型コロナウイルス感染予防対策の影響で遠隔授業となった際の授業参加のための ZOOM ミーティング URL もセキュリティに配慮しつつ同じくポータルサイトに掲載するなど、学生への連絡方法などを変えてきた。

またレポート提出においては電子データ提出を推進し、簡単なアンケートなども Forms 等を活用して、コロナ禍で非接触にしつつも学生がスムーズに学修できるよう配慮した。

（3）入学・卒業・在籍等に関すること

【実施計画・内容】

学生の入学・卒業・在籍に関する事務的处理について、業務が滞ることなく遂行させる。また、学位記、学校基本調査等の調査関係、休退学処理、各種証明書等発行についても同様に遂行させる。

令和3年度中の入学式・卒業式は次のとおり挙行予定。

<入学式>

- ・日時 令和3年4月5日（月）13:30～
- ・場所 富山国際会議場 3階大ホール

<卒業式(学位記授与式)>

- ・日時 令和4年3月18日（金）11:00～
- ・場所 富山国際会議場 3階大ホール 2階201・202号室

<9月卒業式・秋季入学式>

- ・日時 令和3年9月17日（金）卒業式11:00～
令和3年9月24日（金）入学式11:00～
- ・場所 富山国際大学 東黒牧キャンパス 本部棟 2階 大会議室

【評価・課題】

新型コロナウイルスの影響で令和2年度は入学式が中止となったため、令和3年度は、令和2年度入学生（希望者のみ参加）と令和3年度入学生が参加した、合同での入学式を挙行した。また、秋季入学式については、新

型コロナウイルスの影響もあり、入学生がいなかったため、挙行されなかった。

(4) 成績評価、課程の修了及び卒業認定に関すること

【実施計画・内容】

教員が成績評価や卒業認定にかかる決定作業をスムーズにできるよう、締切期限を案内し判定資料提出などのフォローをする。

【評価・課題】

本年度も何とか成績評価等を終えたが、学年暦のスケジュールの関係もあって、タイトな処理となっている。次年度以降、スケジュールに関して議論する必要がある。

(5) 研究生・科目等履修生・聴講生等に関すること

【実施計画・内容】

研究生・科目等履修生・市民聴講生等の募集案内や受入れ後の事務処理について、適格に処理できるよう遂行する。

【評価・課題】

研究生・科目等履修生・市民聴講生等の募集案内については、受け入れ等実績は次のとおりであった。

令和3年度在籍者数 研究生：0名 科目等履修生：0名 市民聴講生：0名

大学コンソーシアム富山単位互換制度における受講について、本学が開講した共同授業科目である「とやま地域学」及び「教養特別講座」以外の科目で、他大学学生が受講した科目はなかった。

なお、本学学生が他大学の科目を受けたのは次のとおりであった。

機関名	科目名	現代社会学部	子ども育成学部	計
関西国際大学	特別研究	1	0	1

今後はより積極的に本学、他大学学生、社会に向けて案内に工夫していく。

(6) 学生の免許及び資格に関すること

【実施計画・内容】

授業内外で関係する資格系講座の検定手続き業務や検定結果資料の提供についてスムーズに行なえるよう努め、学生が受講して充実した、また自身のキャリアアップにつながったと実感できるようフォローする。

【評価・課題】

学生にとって「資格」は一つの個人の成長指標であることから、引き続きよりキャリアアップできるよう、周知方法も含め検討し、フォローをしていく。

なお、本年度も副専攻プログラムにかかる検定試験等についてのフォローが不足していたことは否めない。

(7) オリエンテーションに関すること

【実施計画・内容】

前期・後期の学期初めのオリエンテーション運営に関する業務については、オリエンテーションの次第、資料印刷、座席表掲示等、オリエンテーション全体の取りまとめを行う。

【評価・課題】

今年度も、オリエンテーションに配布する印刷物などの削減に努め、できる限りポータルサイトに掲載した。資料提示については工夫すべき点があるため、次年度に向けて更なる改善を図っていく。

(8) 学務システムに関すること

【実施計画・内容】

カリキュラム編成、成績処理、学籍異動、履修登録、証明書の発行等、教務に関する重要業務について専用システムを使用して行う。

また、学務システムとWebシラバスシステムの運用を重点推進していく。

【評価・課題】

学務システムについては、出欠管理システムを追加したが、今後システムの意義を感じない教員への丁寧な説明が必要である。

Web シラバスシステムについては、まだまだ細かな調整が必要な部分があるため、改善を図っていくと同時に、Web シラバスのそのものの在り方も検討する必要がある。

(9) その他教務関係に関すること

【実施計画・内容】

① 大学コンソーシアム富山（単位互換）について

富山県大学連携協議会を発展解消され、平成 25 年度より大学コンソーシアム富山が創設された。その下部組織である教育連携部会において、教務課として「単位互換」にかかる事業を展開する。

② 公益財団法人富山県ひとづくり財団助成金について

毎年、富山県外郭団体の標題財団が、県内の高等教育機関の教育研究活性化推進をすべく、一定の事業に助成支援をしており、その申請・実績報告業務を実施していく。

③ 公益財団法人富山第一銀行奨学財団研究助成金について

毎年、富山第一銀行奨学財団より本学の研究に一部助成し、地域貢献を図っていることから、その申請・実績報告業務を実施していく。

④ 副専攻プログラムの運営について

平成 29 年度より在籍生から適用・運用していく副専攻プログラム（グローバル人材育成プログラム・地域創生人材育成プログラム）を軌道に乗せる。

【評価・課題】

令和 3 年度は次のような評価と課題であった。

① 大学コンソーシアム富山（単位互換）について

実施計画に基づき、8 月 30 日から 9 月 2 日まで開講した大学コンソーシアム富山共同授業科目「とやま地域学」に 87 名が受講した（本学学生は 15 名）。令和 3 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、Zoom による遠隔授業での開催となった。富山在住の研究者・専門家を招聘し、今年度の特色として、「富山の魅力と宝物の発見」をテーマとし、受講者に富山をもっと知り、その魅力を発見してもらうことを目的とした。「未来の富山について考える」、「富山の産業と生活について考える」、「富山の自然と歴史について考える」について講義を行い、富山の魅力と課題を理解し、アフターコロナ時代においても一人ひとりが輝く富山の地域づくりに参画できる人材の基礎力の育成を目指した 4 日間を計画どおり実施できた。

また、本年度、2 月 21 日から 25 日まで開講した「教養特別講座」には、31 名（本学学生は 4 名）が受講した。「教養特別講座」も、新型コロナウイルス感染症の影響で、Zoom による遠隔授業での開催となった。人間の笑いを様々な側面から考察し、笑いの特徴や奥深さについて理解するとともに、ままならぬ人生を前向きに前進する力を身につけることを目指した。

また、他の単位互換科目では、関西国際大学が開講した「特別研究」に 1 名の受講実績があった。

② 公益財団法人富山県ひとづくり財団助成金について

令和 3 年度は次のような実績となった。

公益財団法人富山県ひとづくり財団高等教育振興事業一覧

<令和3(2021)年度>

助成事業種別	学部・部署	研究課題名	助成額
2号 (シンポジウム等の開催に対する助成)	現代社会学部	地方におけるデジタルトランスフォーメーション（DX）の進展にむけて	119,000
2号 (シンポジウム等の開催に対する助成)	子ども育成学部	富山国際大学 第13回子ども育成フォーラム	127,000
5号 ア (学生確保推進支援事業)	入試広報課	令和3年度富山国際大学学生募集確保事業	876,000
	キャリア支援センター	就職推進事業	527,000
計			1,649,000

- ③ 公益財団法人富山第一銀行奨学財団研究助成金について
公募型申請により、令和3年度は次のような実績となった。

公益財団法人富山第一銀行奨学財団研究助成金 実績一覧

<令和3(2021)年度>

資金種別	学部	職名	氏名 (研究代表者)	研究課題名	実績額
高等教育機関の 研究活動の助成	現代社会学部	教授	川本 聖一	地域の人々と共に進める空家再生	400,000
		准教授	伊藤 葵	地域課題解決に向けたステークホルダー・マネジメントにおける境界連結単位の役割	450,000
		助教	梁 庭昌	空気を読む；クチコミ発信が発信者自身の顧客経験に及ぼす影響	600,000
	子ども育成学部	教授	大藪 敏宏	偶然と社会ーヘーゲル社会哲学研究ー	550,000
計					2,000,000

- ④ 副専攻プログラムの運営について

令和3年度は2つの副専攻プログラム(グローバル人材育成プログラム・地域創生人材育成プログラム)で、グローバル人材育成プログラム2名、地域創生人材育成プログラム3名修了者を認定し、学位記授与式で修了証を手渡した。

なお、本年度の新たな申請者数は新型コロナウイルスの影響もあり、0名であった。

次年度は申請数を増やすことができるよう魅力を伝えていく必要がある。

2. 図書館業務

【概要】

図書館利用については、推薦図書の周知方法の工夫として図書館利用について教員との連携や、オリエンテーションなどでの告知、館内のディスプレイや掲示を工夫し、昨年に引き続き図書館の利用促進を図った。本年度は、東黒牧図書館における図書貸し出し数は令和2年度の876冊/年から932冊/年に増加し、貸出者総数は令和2年度の503名に対して557名と増加、入館者数も令和2年度の5,523名から6,553名と増加した。

(1) 窓口業務に関すること(図書の貸出・返却、複写サービス、相互貸借)

【実施計画・内容】

- ① 昨年度に引き続き、貸出・返却マナーの周知・徹底を学生に促す。
- ② 複写サービスに関して、本学の図書館内での利用や他大学等外部からの取り寄せの各方法を案内し、利用促進につなげる。
- ③ 両キャンパス図書館間の図書相互貸借の状況確認。ILL加盟図書館では相互貸借サービス(有料)もあり、その利用方法を案内し利用促進につなげる。また、富山県立図書館との相互貸借協定の締結を検討する。

【評価・課題】

- ① 本年度の入館者数・貸出冊数は、昨年度コロナ禍の影響で東黒牧キャンパス図書館、呉羽キャンパス図書館共に大幅な減少となったものが若干戻りつつある。次年度についても、コロナ感染状況を念頭にどのような利用者数増を図るか、種々検討する。
- ② 両キャンパス図書館間の図書相互貸借状況はマニュアルに基づき実施し順調である。富山県立図書館との相互貸借協定の締結検討については、未実施だが県内高等教育機関での未締結大学は本学のみを確認したことから、協定へ向けての確認を富山県立図書館へ行った。協定締結の条件として、富山県民から本学図書館の利用実績が必要になること、また、連絡車は同一法人の短大図書館経由にしてほしい、との回答があったことから、締結には再検討が必要となる。
- ③ ILLサービスは、教員研究費利用の場合の利用期間延長について、総務課との相談等検討が必要である。

(2) 図書館資料整理に関すること

【評価・課題】

- ① 学生向け図書の選定に関しては、まだまだ図書推薦が進まない状況にありつつも、教職員の努力により改善の方向、学生への図書サービスの質低下を招かないよう、次年度にもつなげる。
- ② 退職教員の保有図書処分方法を検討し、処分方法を取り決めた。今後は今回決定した方法に従い、処分を行い、収容スペース不足解消を目指す。
- ③ 他大学紀要の所蔵情報について、国立情報学研究所（CiNii）への公開情報を更新し、他大学紀要冊子の処分も加速させる。随時、図書館内以外に別置している紀要等も随時、整理している。
- ④ 定期刊行物（学術雑誌）で子ども育成学部分として購入しているものは、短大付属図書館（呉羽キャンパス）で閲覧・管理しているが、保存場所等の限界により、購入から直近の3年間分を保存している。今後電子化されている学術雑誌への移行・利用を促し、廃棄対象となる学術雑誌は利用希望を確認しつつ、その他は廃棄する方向で検討が必要である。

（3）紀要に関すること

【実施計画・内容】

昨年度に引き続き2021年度も紀要編集専門委員会委員が分担して原稿のチェックを行い、コメントを作成して提出者に配付する作業を行う。またコピペルナーを使用し、提出原稿の知的財産権違反（盗用）チェックを行う。

【評価・課題】

今年度も委員会委員で提出原稿のチェックを行った。チェックプロセスも取り執筆者、委員ともに作業はスムーズに実施でき、委員のチェック内容も単なるケアレスミスや体裁の点検のみならず、論文としての質や表現方法へのコメントにまでに及び、紀要全体としては質が向上した。

（4）図書館HPに関すること

【実施計画・内容】

昨年に引き続き図書館の利用促進につなげるための情報発信及び図書館カレンダーの作成、更新を随時行う。

【評価・課題】

2021年度は昨年度に引き続き、図書館のHPの「お知らせ」欄で、開館・閉館、利用制限の案内更新等を頻繁に情報更新した。また、電子書籍については就職活動関連の書籍を年度更新や、他分野の書籍も多数購入したことの案内、外部データベースの無料利用（契約会社による）案内を含め、種々HPに情報提供を行った。

（5）予算案作成及び予算執行に関すること

【実施計画・内容】

令和4年度予算案策定に向けては、図書館の利用促進に向けての予算案作成を検討する。

また、図書館書架の閲覧頻度の低い書籍の取り扱いについても、将来を見据え検討する。

【評価・課題】

大学・短大との図書館システム更新を行った。今後更新を行ったシステムの検証を行って行く。

（6）図書館委員会に関すること

【実施計画・内容】

図書館運営委員会はできる限り毎月開催できるようにし、図書館利用に関して課題共有と解決に結びつける。

【評価・課題】

2021年度は、毎月開催でき、課題共有と解決方法が共有できたと評価できる。なお、今後も学生の利便性を高めるべく、図書館利用の促進施策や選定図書などの充実、情報化図書館を目指すための課題を整理する。

（7）図書館の将来運営に関すること

【実施計画・内容】

図書館と情報センターの機能を融合させた新しい図書館の在り方について検討するため、今後積極的に外部情報を取得し、長期的な課題として継続して取り組んでいく。

【課題】

図書館と情報センターの機能を融合させた新しい図書館については、長期的な将来構想の中で議論すべき課題である。まずは、図書館本体の機能の充実を図る必要がある。図書館内にラーニングコモンズや、Tuins Book Caféのような新しい教員と学生の活動の場を作る。更に、コロナ禍の影響を考え電子図書館の構築なども検討したい。

3. 情報センター業務

(1) ネットワーク・サーバシステム及び機器に関すること

【実施計画・内容】

急速な情報化の中、富山国際学園 情報教育研究センター主導の下に、学園（東黒牧・呉羽キャンパス）のネットワークサービス全体の向上を、インターネット基本回線契約からネットワーク機器・無線 LAN 設備の交換に至って実施し、学内のネットワーク接続環境を順次向上させている。また、講義室のネットワーク配線を配備し情報教育設備の向上を図った。

【評価】

インターネット基本回線の 1GB から 10GB 接続へアップグレードを進め、ネットワーク機器・無線 LAN 設備の更新により学内のネットワーク環境は向上し、正常に運用されている。またファイルサーバシステムは問題なく運用されている。

【課題】

学生の個人ノート PC 携帯化が進み、メディアコーナー配置の共用コンピュータを Windows10 へ入れ替えたが、今後のメディアコーナーでのコンピュータ利用について検討する必要がある。

クラウドサービスやオンライン講義が多用されるようになり、今後ともネットワークサービスに不測の事態が発生する可能性に備える必要がある。

情報センターが担当するハードウェアおよびソフトウェアの入替えや更新作業は、定期的に発生し、高額な支出を伴うことから、長期的な計画が必要となる。

(2) ソフトウェアに関すること

【実施計画・内容】

Microsoft 社との包括契約を更新し、学生への配布や学内で使用されるコンピュータのアップグレードを図る。情報センター管理下コンピュータ全 9 台（メディアコーナー 6 台、第 1・第 2・第 3 コンピュータ室教卓用コンピュータ各 1 台）を全て Windows10 にて維持している。また、全教職員が使用するオペレーティングシステムの確認とアップグレードへのサポート及び作業の代行を実施する。

学生サポート用ノート PC（東黒牧キャンパス 8 台・呉羽キャンパス 6 台）のソフトウェアを管理し最新状態の環境を維持している。

【評価】

情報センター管理下コンピュータ（デスクトップ型・ノート型）を目的別に設定、最新状態に維持し、使用者の利便性を図っている。

教職員・学生の個人使用コンピュータについては、使用者の意向や目的に合ったソフトウェアに関する提案やサポートを提供し、インストールから設定・更新等あらゆる作業のアドバイスや代行作業を実施した。

【課題】

教職員・学生の個人使用のコンピュータでは、Windows 更新や脆弱性が報告されるソフトウェアの更新がされていないものが多々見られる。ウイルス対策に対する教職員・学生の意識を高める必要がある。

コンピュータ室配備のコンピュータ、および、学生サポート用ノート PC（2019 年度以前）が Windows11 へアップグレードすることができないモデルであり、かつ、老朽化している。

(3) ネットワークアカウント・メーリングリストに関すること

【実施計画・内容】

アカウント管理サービスを提供し、要請に応じて、作成・削除等の作業を行う。メーリングリストサービスを維持し、申請に応じて作成・更新・削除等の作業を行う。

メーリングリスト・アカウント転送設定の一覧、および、メンバー一覧を PDF ファイル化し、ファイルサーバ共有域にて公開する。管理者の要請に応じて一覧表を作成しメンバー変更時に更新作業を行う。

【評価】

教職員・学生の移動については、公式通知である場合は確認の下に、非公開メンバーの場合は、要請に従い適切な処置を行っている。

【課題】

メーリングリスト管理者が、メンバーの入退連絡を忘却した場合、不適切なメンバーの登録となってしまう。不使用となった場合も、管理者が同時に不在となってしまうため、削除申請が出されずに放置されてし

まう。

(4) 共用プリンタに関すること

【実施計画・内容】

平成 27 年度に設置した学生用の共用プリンタ（東黒牧キャンパス 1 台、呉羽キャンパスの 2 台）を管理している。

【評価】

個人が使用するノート PC からの共用プリンタの利用が進み、ほぼ全学年を通してノート PC から共用プリンタを利用することが習慣化している。

【課題】

学生個人ごとのプリンタ利用履歴を見ると、両キャンパスでクラブ活動、学園祭などの利用のために、また、呉羽キャンパスでは一部の学生において著しく高い。従量課金支出は全体として予算内で収まったが、支出の 84% を呉羽キャンパスが占め、子ども育成学部学生の利用率が非常に高いことから、今後も予算確保が必須である。

(5) 学生用斡旋ノート型コンピュータに関すること

【実施計画・内容】

斡旋 PC の納品後の引き渡し以降は、情報センター員が学生指導およびソフトウェアインストール作業を実施している。OS の初期立ち上げとインターネット接続以降の諸設定と利用教育は、1 学年の必須科目である「ビジネス情報演習 I・II」の科目の中で、教員によって実施されている。

「ビジネス情報演習」科目は学生自身のノート PC のみを使ったリテラシー教育であり、学生が常に自分自身のノート PC を利用することから、情報センターにおけるサポートの重要性は高く、センター職員によって順調にサポートが行われている。

【評価】

順調に学生への購入案内・発注・納品が行われた。学生の指導においては、合同および個人レベルで実施し、学生自身がノート PC を日常の学業に使用できる状態へと、無事に以降してきている。

【課題】

引渡し説明会の時間が短く、誤った設定や作業に追いつけず未設定にしたままとする学生がいる。

(6) 学生個人購入コンピュータ・教職員使用コンピュータに関すること

【実施計画・内容】

教職員および学生の個人購入コンピュータに関する質疑に対応し、問題解決、必要に応じ作業を代行する。

【評価】

提示された問題を解決し、適切な指導や代行作業を行う。

【課題】

機種仕様の違いが大きく、ウイルス対策がされていなかったり、サポートが終了しているソフトウェアを使用していたりするものもある。個人購入の場合、ウイルス対策やサポート終了製品に対して、学内での使用を制御することが難しい。

(7) 貸出機器に関すること

【実施計画・内容】

ノート型コンピュータや無線アクセスポイント機器等各種コンピュータ機器の貸出と管理を行う。

【評価】

ノート型コンピュータの貸出は、故障・修理時や、購入したノート PC が届かない等の状況にある学生に、また、そのような学生を受講生として持つ講師に高く評価されている。貸出の準備を行っていることの有効性は高い。

【課題】

Wi-fi 環境が徹底していない講義室・ゼミ室での Wi-fi 環境の要請が高まっているため、一部の講義室・ゼミ室ではアクセスポイント機器を、貸出しではなく、常設する結果となっている。

(8) ウェブサイトに関すること

【実施計画・内容】

情報センターサイトを維持する。

他の部署・学生サークル等での複雑なサイトの編集サポートおよび代行作業する。

【評価】

情報センターサイトを最新状態に維持している。

依頼に応じて、他の部署・学生サークル等サイトの編集、アップロード指導や作業を補助している。

【課題】

大学サイト全体としては、各部署にて更新作業が不徹底な部分が見受けられる。

充実・補充等も含めた対策が喫緊の課題である。

4. 学生課業務

(1) 奨学金に関すること

富山国際大学奨学金、独立行政法人日本学生支援機構奨学金、富山第一銀行奨学財団奨学金、各県市町村関係の奨学金等の取り扱いをし、各奨学金の申請、継続、返還、異動などの手続きや学習成績の報告を行う。

【実施計画】

経済的に困難な状況にある学生の修学を支援するため、日本学生支援機構奨学金、地方公共団体・財団等の奨学金および本学独自の各種奨学金制度がある。また、本学独自の奨学金としては、経済的理由により学費等の納付が困難である者、成績優秀者、諸活動で成果を収めた者、海外留学者(半期)、外国人留学生を対象にした制度がある。奨励金制度は、学業成績または諸活動において前年度に著しく優秀な成果を収め、他の在学生の模範であると認められた2年次以上の学生に給付する制度である。

【実施内容】

富山国際大学奨学金

奨学種類		給付額	2021 予定人数	2021 実績人数
(第1種) 在校生	経済的理由	1,030,000	1	0
		430,000	1	0
		340,000		
		275,000		
	小計		2	2
(第2種) 受験生	特別奨学生 選抜試験	600,000	4	
		300,000	4	2
	小計		8	2
(第2種) 在校生	特別選抜 試験特待生	680,000	2	2
		550,000		
		365,000	6	6
		340,000	1	0
		300,000	5	2
		275,000		
	小計		14	10
(第2種) 受験生	諸活動 特待生	200,000 (入学金のみ)	10	4
		100,000 (入学金の内10万)	1	1
		600,000	1	1
		300,000	3	5
		200,000	2	2
	小計		17	13
(第2種) 在校生	諸活動特待生	680,000	1	1
		600,000	1	1
		365,000	1	1
		340,000	7	7
		300,000	9	10

		275,000		
		200,000	6	7
		小計	25	27
(奨励金) 2021 年度より、 奨励金は無く、 表彰のみ	成績優秀者	0	6	6
	諸活動優秀者	0	2	0
	小計		6	6
	合計			
※後援会特別奨学金（新型コロナウイルス対策給付金） 給付実績 12 名（現代社会学部 7 名 子ども育成学部 5 名） 給付金額 897,000 円（現代社会学部 557,000 円 子ども育成学部 340,000 円）				

日本学生支援機構等奨学金等

奨学財団名等		人 数	備 考
日本学生支援機構		380	第 1 種 169 人 第 2 種 146 人 給付 65 人
富山第一銀行		0	
富山県		1	
石川県		0	
各市町村		2	(滑川市 1 人、射水市 1 人)
交通遺児育英会		0	
あしなが育英会		0	
留学生	富山県	3	
	日本学生支援機構	1	
	朝日国際	5	

【評価と今後の課題】

近年、日本学生支援機構の奨学金を申請する学生が年々増加傾向にある。

特に、令和 2 年度からスタートした授業料減免と給付奨学金がセットとなった修学支援制度の申込が急増した。大学独自の奨学金では、限られた予算の中で、一人でも多くの学生への支援したく給付金額を考えながら個別面談し引き続き対応している。

令和 3 年度は、前年度に創設した後援会独自の給付奨学金を、新型コロナウイルス感染症の影響により、アルバイト収入が減少し、経済的に困窮し学業に支障が出ている本学学生を対象にした。

また情報提供については、オリエンテーション時に学生へ、各種奨学金制度について説明を行い、さらに、ホームページやメール等で都度、案内しているが、引き続き相談しやすい体制作りを構築していく。

(2) イベント関係に関すること

大学祭、スポーツ文化交流会、富山県私学祭、卒業記念パーティー等を運営する学生の補助をする。

◆大学祭

【実施計画】

現代社会学部 2021 年 10 月 23 日(土) 東黒牧キャンパス

子ども育成学部 2021 年 10 月 16 日(土) 呉羽キャンパス

※両学部とも新型コロナウイルス感染症の影響によりオンライン大学祭を開催

【評価と今後の課題】

コロナ禍の中、東黒牧キャンパスは大学祭実行委員会が、呉羽キャンパスは学友会を中心に、企画、実施した。コロナ禍の中、両学部とも初めての試みであり、手探りで挑戦したが、最後まで諦めずイベントを成功させたことは学生を大きく成長させたと思う。

◆スポーツ文化交流会

【実施計画】

1. 目 的 スポーツ及び文化系競技等を通して、富山国際大学両キャンパスの学生（留学生を含む）及び教職員相互の親睦を図ることが目的。

2. 期 日 2021 年 6 月 5 日（土）

3. 会 場 富山国際大学 東黒牧キャンパス

【評価と今後の課題】

2021 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止。新型コロナウイルス感染症が収束した暁には、改めて両キャンパス及び教職員相互の親睦を図ることを目的にスポーツ文化交流会を復活させたい。

◆私学祭について

富山県私学祭

【実施計画】

・私学の美術展

日時 2021 年 11 月 20 日（土）～22 日（月）10 時～17 時（最終日は 16 時まで）

場所 富山県高岡文化ホール

内容 私学に在学する大学、短期大学、小学校、中学校、高等学校及び専修学校・各種学校の学生、生徒、並びに私立幼稚園・認定こども園の園児の作品展示

【評価と今後の課題】

私学祭の出品は、主にサークル活動及び個人的に活動している学生からの作品で、令和 3 年度は、子ども育成学部から「書」6 作品の出品があった。出品数が年々減少傾向にあるため、出品者をどう増やしていくかが今後の課題。また、開催期間に作品を観覧する学生が少なく、来場者を増やす仕組みづくりが必要。

◆卒業記念パーティー

【実施計画】

令和 3 年度 第 29 回 富山国際大学卒業記念パーティー計画概要について

日 時：令和 4 年 3 月 18 日（金） 受付 15：30～16：00

宴 会：16：00～18：00

会 場：ホテルグランテラス富山

主 催：富山国際大学後援会 後援 富山国際大学同窓会

司 会・進行：現代社会学部学友会・子ども育成学部学友会

会 費：卒業生・教職員 一人 3,000 円

【評価と今後の課題】

令和 3 年度 第 29 回 富山国際大学卒業記念パーティーについては、令和 4 年 3 月 18 日（金）ホテルグランテラス富山にて開催予定としていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止。

毎年、学生の参加数も多く盛大に開催していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、卒業記念パーティーが中止となり、学生から「コロナ禍の中、仕方ないと思うが、とても残念だ」との声が多く聞かれた。

（3）クラブ関係に関すること

クラブ・サークルの運営管理、クラブ・サークルの後援会予算管理等を行う。クラブ会総会開催の補助をする。

【実施計画】

令和 3 年度 クラブ会総会

日時：令和 4 年 3 月 11 日（金）

開催方法：Zoom ミーティング

1. 令和 4 年度 クラブ会 会長等の選出について

2. 令和 4 年度のクラブ活動について

- ・富山国際大学クラブ規程等について
- ・学生団体継続願・活動報告書等について
- ・学内施設（大学会館・体育館等）の利用について
- ・各種届出について（遠征届・バス利用申請等）

3. 新入部員の勧誘について

4. 令和 4（2022）年度 スポーツ文化交流会について

5. スポーツ安全保険について

6. その他

【評価と今後の課題】

コロナ禍の中、Zoom ミーティングで実施。クラブ会主催のイベントはスポーツ文化交流会のみとなっており、今後、両学部の部・サークルの活性化や交流を深めるための工夫が必要。

クラブ会総会

令和4年3月11日（金）15:30より、令和3年度クラブ会総会をZoom ミーティングで実施した。

議題は以下の通り。

1. 令和4年度 クラブ会 会長等の選出について
2. 令和4年度のクラブ活動について
 - ・富山国際大学クラブ規程等について
 - ・学生団体継続願・活動報告書等について
 - ・学内施設（大学会館・体育館等）の利用について
 - ・各種届出について（遠征届・バス利用申請等）
3. 新入部員の勧誘について
4. 令和4（2022）年度 スポーツ文化交流会について
5. スポーツ安全保険について
6. その他

【実施内容】 令和3年クラブ一覧

体 育 系 部 & サ ー ク ル	東黒牧キャンパス	呉羽キャンパス
	硬式野球部 サッカー部 ボート部 陸上競技部 硬式テニスサークル バスケットボールサークル	陸上競技部 女子軟式野球部サークル（短大と合同） SPORTY サークル ダンスサークル バスケットボールサークル バドミントンサークル バレーボールサークル フットサルサークル ソフトテニスサークル
文 化 系 部 & サ ー ク ル	軽音楽部 吹奏楽部 ボランティア部 環境サークル 芸術サークル ボードゲームサークル 語学サークル レクリエーションサークル 読書サークル「つんどく」 SDG s 推進サークル	吹奏楽サークル アカペラサークル SSW・BBS 研究会 書道サークル TUINS English Club TIES（富山国際大学小学校教育研究会） 保育サークルへここにこへ 学生団体MUL 茶道サークル 軽音楽サークル 歩いて発見!となみ野サマーチャレンジサークル TRPG サークル TUINS プログラミング教育研究会

【評価と今後の課題】

新型コロナウイルス感染症の影響により、部・サークル活動の自粛期間が長く、思うような活動が出来なかった。また、強化指定クラブも例外ではなくボート部・女子ハンドボール部・硬式野球部・陸上競技部も各種大会が

一部で中止となるなど苦しい1年となった。

その中で、ボート部男子は、全日本大学選手権大会 ダブルスカル優勝、男子ペア優勝し、硬式野球部は北陸大学野球連盟秋季I部リーグ戦5位と善戦し、陸上競技部は、北信越学生陸上競技選手権大会 女子走り高跳びで優勝するなどの活躍し、本学の名声を高めた。引き続き、優秀な成績を収めたことにより他のクラブも刺激を受けながら、切磋琢磨し成績向上に繋がれば良いと感じている。クラブ活動に対し、積極的に参加している学生がいる一方で、参加していない学生も多く、充実した学生生活を送るには、部・サークルに所属し、仲間を多く作ることが重要であると考え、学友会・クラブ会を中心に今後も勧誘活動に注力していく。

(4) 大学コンソーシアム富山に関する事

【実施計画】

実施日時 2021年9月19日(日)、9月20日(月・祝) 9:00~16:30

実施場所 オンラインセミナー

開催内容 学生地域リーダー塾

参加対象 大学コンソーシアム富山 県内7高等教育機関の学生会等の所属学生

参加者 学生 27名 教員 9名(うち富山国際大学 学生 8名 教員 1名)

県内高等教育機関において、学生会やサークル等のリーダーとして活動する学生を対象に、リーダーシップ力・コミュニケーション力・課題解決力が身につく塾である。また、各所属機関の枠を越えた研修により、学生間の交流や連携を深め、ひいては相互の主体的な活動による大学等間連携の推進を目指す。

【評価と今後の課題】

2019年度まで、「リーダー等研修会」を1泊2日で実施していたが、2020年度より「学生地域リーダー塾」として名称および研修内容の見直しを行った。

「学生地域リーダー塾」は、地域の魅力や地域の課題について学びながらリーダーシップ力、コミュニケーション力、課題解決力が身につくことを目的とした塾であり、第1回目は新型コロナ感染症の影響により、オンラインセミナーとなった。参加学生から「魚津市のことを知る良いきっかけとなった」地元の魚津市の魅力を再発見することが出来た」などの声が寄せられた。

オンラインでの開催であったため、他大学の学生との交流は図れなかったが、お互い刺激を受けながら充実した時間を過ごすことができたと思う。学生地域リーダー塾で学んだことを生かし、大学では中心的な役割を果たし、活躍することを期待している。

(5) 夢への架け橋助成事業に関する事

夢への架け橋助成事業の募集告知、申請事業のヒアリング、学内審査会、助成金の交付、事業終了後の報告書管理を行う。

【実施計画】

募集期間：2021年4月1日(木)~5月7日(金)【必着】

1 目的

この助成事業は、本学の学生の活力を生かすとともに、地域との連携を更に深め地域に貢献することにより、本学の活性化に資することを目的に、本学の学生から研究・活動等の事業計画を募集し、その事業の実施に対し本学が助成・支援を行う。

2 助成対象事業

本学に在学する個人又はグループで積極的に研究・活動等を行うものとし、以下に掲げる事業とします。

- (1) 地域問題、国際問題に関する調査・研究事業
- (2) ベンチャー企業の創設に関する調査・研究事業
- (3) NPO活動事業
- (4) イベント計画・実施事業
- (5) ボランティア活動の計画・実施事業
- (6) 地域活性化の調査・研究又は事業の実施
- (7) 国際的文化交流に関する活動
- (8) 各種創作活動
- (9) その他本学の活性化に繋がると認められたもの

【実施内容】

2021 年度 夢への架け橋助成事業申請

NO	事業
1	Teacher' s Archives
2	新規 SNS の開発
3	TUINS サッカー教室 2021 及び TUINS サッカー大会
4	大学オリジナル・日本酒プロジェクト
5	読書イベントによる学生の活動活性化事業
6	松山ゼミでの活動「つながり！発見！地域で子どもたちと新たな学びを！」
7	ちょっこおいでまこども食堂キャンパス〜種まき風土（フード）プロジェクト〜
8	小学校体育授業サポート
9	Communication House（みんなの家）：Your Place, My Place, Our Place
10	TUINS プログラミング教育研究会
11	オリジナル絵本プロジェクト

【評価と今後の課題】

従来はヒアリング審査会を対面で実施していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年度よりオンラインにて実施した。また、限られた予算の中で、これまで申請のあった全事業に対し、助成金額の配分を行ってきたが、昨年度より申請金額をカテゴリー（A30 万円コース B20 万円コース C10 万円コース）に分け、コンペ形式を採用するなど、実施要領の見直しを図った。

今年度は全事業の総額が予算内に収まり大きな混乱は無かったが、予算額を超える申請があった場合、厳正な審査が求められる。

（6）広報関係に関すること

年 2 回のコスモス通りの発行業務（内容案作成、原稿依頼、原稿収集、校正）を行う。

【実施計画】

82 号 入学式（2021 年 4 月 5 日（月））に新入生に配布

2・3・4 年生は、保護者宛ての後援会総会案内状に同封する

83 号 2021 年 9 月中旬 保護者宛ての前期成績表の発送時に同封する

【評価と今後の課題】

年 2 回発行し、記事内容については年間を通して検討し、充実した学内報となるよう工夫を凝らした。引き続きマンネリ化しない様にしていく。

◆学生生活アンケート

【実施内容】

「令和 3 年度学生生活アンケート」

後期のオリエンテーション（9 月末）時にアンケート実施を行った。この結果を踏まえて、今後とも、学生の皆さんがより楽しく充実した大学生活を送れるよう、学習環境の改善に努めていきたいと考えている。

【評価と今後の課題】

データ分析をして、今後このデータを利用して学生生活の向上を図るため、毎年実施している。このデータを基に、改善していく。

◆学長賞等表彰について

【実施計画】

この一年間、本学の学生として著しく表彰に値する業績のあった者あるいは、文化、スポーツ、諸活動を通じ、特に優れた業績を修めた団体又は個人に対し、富山国際大学学則第 38 条及び同学生表彰要項に基づき表彰するため、関係者に候補者の推薦をお願いし実施する。

【実施内容】

下記の学生表彰候補者が提出され、2022 年 3 月の学務委員会ならびに両学部の教授会、運営会議で審議し承認された。

学生表彰候補者一覧表

No	表彰規程	推薦賞名	個人・団体	所属
1	第2条1	学長特別賞	団体	ボート部（男子ダブルスカルチーム）
2	第2条2（1）ア	学長賞	個人	陸上競技部（男子 1名）
3	第2条2（1）イ	学長賞	個人	ボート部（女子 1名）
4	第2条2（1）イ	学長賞	団体	ボート部（男子クォドルプルチーム）
5	第2条2（1）イ	学長賞	団体	ボート部（男子ペアチーム）
6	第2条3（1）ア	学長功労賞	個人	現代社会学部・女子1名
7	第2条3（1）ア	学長功労賞	個人	子ども育成学部・女子1名
8	第2条3（1）ウ	学長功労賞	団体	ちょっこ おいでま こども食堂（子ども育成学部）

※富山国際大学学生表彰規程細則に基づき学生表彰候補者が選出された。

【評価と今後の課題】

推薦書は4個人・4団体から提出され表彰することとなった。新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、学位記授与式自体が縮小され、名前と業績の紹介のみとなった。学位記授与式の終了後、各学部の会場で学長賞・学長功労賞の表彰を改めて行った。

（7）学生定期健康診断に関すること

【実施目標】

学校保健安全法に基づき、学生の健康保持増進を図るため、毎年全学生を対象に定期健康診断を行う。各自の健康状態を把握し、疾患等の早期発見と適切な治療や指導を行う。

【実施内容】

両学部ともに2日間で実施した。

健診項目は身体計測（身長・体重・視力）、血圧、尿検査、胸部X p 撮影、内科診察。

※心電図検査：1年生全員と前年度心電図検査で有所見とされた在学生在が対象。

※抗体検査（血液検査）：子ども育成学部1年生が対象。

【評価と今後の課題】

健康診断受診率は100% 有所見者は延べ 298名。

有所見者に対しては校医診察、健康相談、保健指導を行い、必要に応じて医療機関受診とした。留学生は2名。

（8）教職員定期健康診断に関すること

【実施目標】

教職員の健康の保持と増進、疾病の早期発見、予防などを目的として、毎年定期的に健康診断を行う。

【実施内容】

毎年9月学生の夏季休業中に本学内に於いて実施している。また当日受診できない教職員については健診機関にて受診できるよう数日予備日を設けている。

健診項目は身体計測（身長・体重・視力・聴力）、血圧、尿検査、胸部X p 撮影、内科診察、血液検査、胃透視、大腸検査、婦人科検診、PSA 検査を実施した。

【評価と今後の課題】

呉羽Cは9/16（木）、東黒牧Cは9/13（月）に実施した。健康診断受診率は病欠を除き100%であり、有所見者は約49名。有所見率は毎年高い。

有所見者に対しては産業医面接の推奨、健康相談、保健指導を行い、必要に応じて医療機関受診とした。学内での受診が難しい場合は、医療機関でのドック等の結果提出をお願いしている。

（9）救命講習会に関すること

【実施目標】

AED 設置に伴い、その操作を含む救命講習会を消防署の救命士を講師として行う。

【実施内容】

- ・呉 羽C：1月の予定であったが中止。
- ・東黒牧C：後期オリエンテーション時（1年次生対象）の予定であったが中止。

【評価と今後の課題】

- ・呉羽C：日時については担当教員と協力のもと実施、令和元年度より90分コースとなっていたが中止。
- ・東黒牧C：令和元年度より、後期のオリエンテーション時に実施することになり2年度から毎年同日に実施することとなっているが、コロナの影響で中止。

(10) 相談業務について

【実施目標】

- ・身体面健康の保持と増進のため、学校医が相談に応じる。
- ・精神的健康の保持と増進のため、カウンセラーが相談に応じる。

【実施内容】

〈学校医〉 月1回来校

〈カウンセラー〉東黒牧C：毎週金曜日 11:00 から 16:00 まで

呉羽C： 第1・3木曜日 12:00 から 16:00 まで

第2・4木曜日 13:00 から 17:00 まで

【評価と今後の課題】

R3年度の健康管理センター利用者（学生）は延べ321名、呉羽Cは177名であった。

カウンセリングを受けた学生は延べ307名であり、東黒牧Cは150名、呉羽Cは157名であった。内訳は学生生活、家庭、進路、就職、対人関係など多岐にわたっている。今年度も精神疾患、身体疾患の学生の入学があり、教職員間の情報共有や合理的配慮が必要と考えられる。精神疾患及びそれを疑われる学生については、職員全体の病気に対する理解と協力が必要であると思われる。学校医やカウンセラーが非常勤であるため、常駐している看護師が来室する学生の相談にのることがあるが、学生の状況に応じて学校医やカウンセラーへ繋いでいくようにしている。

(11) 健康診断証明書の発行に関する事

【実施目標】

就職・実習・奨学金申請等に必要な健康診断証明書を、定期健康診断の結果に基づいて発行する。

【実施内容】

子ども育成学部4年生の就職用健康診断証明書は、呉羽C健康支援センター（短大保健室）から発行している。現代社会学部全学生と、子ども育成学部1～3年生及び実習等に必要な健康診断証明書は、東黒牧C健康管理センターより発行している。

(12) ストレスチェックに関する事

【実施目標】

2015年12月からストレスチェック制度が義務づけとなる。（労働安全衛生法）この検査により、労働者が自分のストレス状態を知ること、メンタルヘルス不調を未然に防止する。また職場の環境改善につなげる。

【実施内容】

今年度は7月に、両キャンパス同一健診機関（北陸予防協会）のストレスチェック検査を実施した。受診率は98.5%（昨年98.5%）であった。「仕事のストレス判定図」は全国平均を100とし、富山国際大学の健康リスクは103（昨年107）であった。高ストレス者は10名（昨年10名）であった。

【評価と今後の課題】

2016年よりストレスチェックを開始し、受診率は昨年に比べてあがった。集団分析を教員と事務員の2集団としたが、このまま2集団で推移をみることとなった。高ストレス者の産業医面接の勧奨、環境改善をどうするか等継続した課題である。各キャンパス衛生委員会で検討していく必要があると思われる。

(13) その他

上記の大項目に含まれないが、学生課にて対応する業務。

主なものとして、学生指導に関することが挙げられる。各行政機関からの依頼によるイベント等の学生参加案内、法改正に伴う啓発広報、社会情勢等によりトラブル防止の注意喚起・指導など、適宜行っている。

5. キャリア支援センター

(1) 庶務業務に関すること

各種調査、卒業生進路状況作成、進学説明会・高校訪問等資料作成、「大学案内」のページ校正、富山県ひとづくり財団助成事業精算処理、内定礼状作成・発送、卒業生アンケート調査、運営会議・教授会資料作成、キャリア支援センター運営会議資料作成等。

【実施計画】

- ①各種調査
- ②進学説明会、県内高校教員に対する入試説明会、高校訪問用の資料作成
- ③「大学案内」ページ校正
- ④富山県財団法人ひとづくり財団助成事業
- ⑤内定礼状作成
- ⑥キャリア支援センター運営会議資料・議事録作成
- ⑦運営会議・教授会資料作成業務
- ⑧就職アドバイザー出勤管理
- ⑨キャリア支援センター予算管理
- ⑩学外会議等への出席
- ⑪富山県インターンシップ推進協議会開催インターンシップ手続き
- ⑫大学ホームページの更新作業

【実施内容】

- ①各種調査
 - ・卒業予定者の就職決定状況【富山公共職業安定所】 毎月、月末の内定状況をメールにて10日前後に報告
 - ・新規大学等卒業生の求職・就職内定状況【富山県労働雇用課】
 - ・学校基本調査(5/1付調査) 【文部科学省】卒業後の状況調査票(学部毎)
2-1(状況別卒業生数、入学年度別卒業生数、男女別)2-2(職業別、産業別、男女別)
 - ・学校法人基礎調査(5/1付調査)【日本私立学校振興】
(進路別卒業生数、産業別就職者数、男女別)
 - ・その他民間企業からの調査依頼
 - ②進学説明会、県内高校教員に対する入試説明会、高校訪問用の資料作成
入試広報課より卒業生就職先データ作成依頼有り、過去2,3年間のデータを出身校別に作成。
 - ③「大学案内」ページ校正
企業への大学PR用ツールとして作成。
 - ・キャリア支援センター長・次長・センター員で内容確認。
 - ・原稿依頼、データ作成・写真選択
 - ・配布先
企業(企業・事業所・大学講演会及び求人票に同封)
 - ④富山県ひとづくり財団助成事業
 - ・次年度の要望調書(就職推進事業)作成・提出 ※交付条件有
 - ・交付申請書作成・提出
県の様式に従って書類を作成
学長までの伺書を作成し、承認後提出
- ※補助対象経費の支出は、交付決定のあった日以降からの支出になるので注意
- ・事業実績報告書作成・提出
 - ・学長までの伺書を作成し、承認後提出
- ⑤内定礼状作成
令和3年12月1日以降、内定した企業(確実に内定した企業へ行くことを確認した企業)に対して、随時令状を送付。
 - ⑥キャリア支援センター運営会議資料・議事録作成
センター長・センター次長と審議事項、報告事項を確認し、開催通知の配信、会議資料の作成・配信、会議後に議事録を作成し、回覧・定稿後、運営会議、教授会に提出。
 - ⑦運営会議・教授会資料作成業務。

審議事項、報告事項に提出する資料をセンター長、課長に確認し2日前にデータを総務・教務課に提出する。

※内定状況資料は、最新の内定率に変更して提出

⑧就職アドバイザー出勤管理

毎月、就職アドバイザーの出勤表を作成し、事務局カウンターに設置するとともにホームページに公開。
また、学生からのメール、電話等での予約も受け付ける。

⑨キャリア支援センター予算管理

消耗品の発注、就活関連書籍の購入、大学案内の発注等に係る予算執行。

⑩学外会議等への出席

富山県インターンシップ推進協議会運営会議、大学コンソーシアム富山県合同企業訪問会議等への出席。
令和2年度はコロナ禍により、学外会議は少なかった。

⑪富山県インターンシップ推進協議会開催インターンシップ手続き

- ・「企業との事務書類手続き」
依頼文の作成
エントリーシートを送付
「インターンシップの覚書」「同意書」「実習報告書」「実習内容報告書」の送付
賠償責任促進手続き

⑫大学ホームページの作業

就職実績の更新（年1回）、就職アドバイザーの出勤情報の更新（毎月）、キャリア支援関連情報の掲載等

【評価と今後の課題】

期日厳守の作業が多く、作業工程及び役割分担の見直しが必要となっている。特に各種調査については、民間企業における調査が多く、内容は似ているが調査に時間が取られて、大学の業務に障害が起きないように、提出企業の見直しを図る。

（2）キャリア教育に関すること

【実施計画】

現代社会学部におけるキャリア・デザイン講座a・b（1年次必修科目）、地域企業講座（2年次選択科目）、キャリア支援講座a・b（3年次必修科目）、インターンシップの授業運営に関わる補助業務を担当している。

尚、子ども育成学部では、キャリア入門講座（1年次）、キャリア支援講座Ⅰ（2年次）、キャリア支援講座Ⅱ（3年次）キャリア支援講座Ⅲ（4年次）、実習、インターンシップ等は学部の担当教員が中心に運営している。

【評価と今後の課題】

- ・キャリア・デザイン講座aは、令和2年度より見直しを図り、1年次前期は就職に特化せず、入学した学生に大学4年間をどのように過ごし、自身のキャリアを形成させるかを考える授業内容とした。後期bは、担当教員が例年前期に実施している内容で、社会に目を向けるための新聞の記事を題材にした「読み」「書き」を中心にした授業を展開することとした。令和3年度も前年から継続して、同様の内容を実施。ただし、令和2年度はキャリア支援センター長がコーディネートして事務局が補助をするという体制だったが、令和3年度は現代社会学部のキャリア支援委員教員が中心に授業運営し、教務課職員が補助した。キャリア支援センター事務局は講師の手配等の業務を担当した。結果として、授業ごとに教員が入れ替わったことから、一貫した指導ができないため、センター長など1人の担当が半期を通じて担当した方が効率的で効果が高いことや、キャリア担当教員や教務課職員に新たな業務負担が増えたことが課題として挙げられる。
- ・地域企業講座は、令和2年度からスタートし、地元企業から講師を招聘し学生の企業研究に役立てたが、協力企業からの評価が高く、令和3年度からは「キャリア育成講座」として2年次必修科目として開講することとなった。
- ・キャリア支援講座・子ども育成学部キャリア支援については、就職活動に向けて学生を支援する授業だが、コロナ禍により令和2年度は例年と比較すると手厚くできなかった。そのため、令和3年度は対面での授業に戻ったため、例年通り手厚い支援を心掛けた。
- ・全体的な課題として、現代社会学部はこれまでキャリア関連授業と就職支援が一体となり高い就職実績を実現してきたが、今後は授業と支援は切り離す方向性であること、子ども育成学部は民間企業就職希望学生への支援が手薄であることが課題として挙げられる。

（3）データ管理に関すること

【実施計画】

- ①卒業生就職先、在学生進路状況、企業データの管理。
尚、子ども育成学部でも独自のデータ管理を行っている。
- ②卒業生就職先
企業に求人票を送送する際に、その企業に卒業生が在籍しているかいないか確認するために、在籍者調査を実施(2月実施)
- ③在学生進路状況
5月・8月に専門演習Ⅱの担当教員に調査を依頼し、未内定者を把握し就職活動を支援
- ④企業データの管理
求人票送付及び企業データ修正、求人票に日付印を捺印(通年)

【実施内容】

- ①卒業生データ管理
 - ・個々の就職データ管理
企業に求人票を送付する際に、その企業に卒業生が在籍しているか居ないか確認するために、在籍者調査を実施(2月実施)
 - ・企業より回答を得たデータを元に卒業生データの修正・加筆
- ②卒業生就職先を調査
 - ・卒業生の進路状況冊子を作成し学生のご家族や県内高校に配布するとともに役員会議(理事会)にも提出。
 - ・作成する冊子は卒業生対象のため、今年度は令和2年度の就職実績を作成。
- ③在学生データ管理
 - ・進路登録カード
 - i. 7月にキャリア支援講座の授業時に配布、作成
 - ii. 夏休み期間中に自己分析と企業研究をさせる
 - iii. 夏季休暇以前回収する
 - ※留学生で進学、帰国する学生は後期授業開始前までに回収)
 - ※個別面談をして、学生の特徴を把握し、要注意学生をリストアップしている。
 - 現在は模擬面接の様子から学生の特徴を把握する。
 - ※このカードを参考に、学生の情報と希望企業を照らし合わせて、求人票を紹介する。
 - iv. 個人情報記載(相談内容、気付いた点、証明書発行企業名、3年次までの単位修得数、内定・辞退先企業)
 - ※カードの裏面は、個人情報となっているので取扱注意
 - v. 進路登録カードと学生の履歴書、模擬面、接評価表、グループディスカッション、SPI 答案用紙も個々に綴る。
 - ・内定後の手続き
 - i. 進路内定(決定・辞退)届
 - ii. 進路が決定後用紙に記載
 - iii. 内定通知書のコピーを撮り一緒に綴る
 - iv. 産業分類、職業分類は本人に確認する
 - v. 今後就活を続行するかの有無をきちんと把握する
 - vi. この用紙を基に内定状況データに入力する
 - ・就職状況報告書
 - i. 進路が決定後用紙に記載
 - ii. 後輩学生のため、日程・適正検査・筆記試験内容・作文、小論文テーマ、面接内容を詳しく記入してもらう
 - iii. 年度毎にファイルを作成し、次年度学生の参考資料として閲覧する
 - iv. 証明書発行時には、このファイルの先輩情報を提供する
 - ・進路状況調査依頼
 - i. 4年ゼミ担当教員に対して調査を年2回実施
 - ii. 就職先内定データを基にゼミ教員ごとに作成
 - iii. 依頼文作成
 - iv. 依頼文と進路状況調査票を配布
 - v. 調査票回収後に就職先内定状況データに反映させる
- ④企業データ管理

- ・求人票受付
 - i. 求人票発送及び企業データ修正
 - ii. 求人票発送先データの作成(学部ごとに作成)
 - iii. 会社名、所在地、統合、倒産等の確認をホームページ等で確認する
 - iv. 依頼文の作成(学部ごとに作成)
 - v. 求人票用紙の手配(学部ごとに作成)
 - vi. 起案書の作成
 - vii. B2クラウド、封筒の準備
 - viii. 求人票発送(採用のための大学案内、在職者調査も同封)
 - ix. メール便が届かなかった企業のデータ修正を行う
 - x. 卒業生データの企業名も修正をかける
- ・求人票に日付印を捺印
 - ※企業人事担当者が、大学に来て求人票を提出された場合は、企業の求めている学生像を聞き出す。
- ・県内求人・県外求人・共通県内求人・共通県外求人 に分けてナンバーリングする
- ・会社説明会及び学外ガイダンスのポスター、チラシ等も随時掲示する
 - ※ 求人件数及び求人人数(2022年3月31日現在の求人件数)
 - 県内求人件数-426件・県内求人人数- 1,866人
 - 県外求人件数-412件・県外求人人数- 22,189人

【評価と今後の課題】

求人票のデータ管理システムは複雑であり、業務的にロスが多いので、単純化を図る。
就職活動を目前とした時期にコロナ禍で通学を制限せざるを得なかったため、オンラインを利用した情報配信を今後の課題として検討していく。

(4) キャリア支援センター行事に関すること

【実施計画】

- ①「企業・事業所・大学講演会」の講師関連、発送先リスト作成、案内発送、会場準備、報告書作成等の運営に関する業務。

「企業・事業所・大学講演会」

「令和3年度 富山国際大学 企業・事業所・大学講演会」次第

開会の辞

日 時 : 令和3年11月26日(金) 15:30 ~ 17:10

場 所 : 富山国際大学 本部棟大会議室 オンライン配信

(住所: 富山市東黒牧6-5-1 TEL: 076-483-8000)

受 付 : 14:40 から

開会挨拶: 15:30 高木 利久 学長

大学紹介: 15:35 高橋 哲郎 キャリア支援センター長

休 憩 : 15:55

講 演 : 16:00

「デジタル時代の人材育成の現状と展望」

講 師 : 独立行政法人 情報処理推進機構 社会基盤センター長 片岡 晃 氏

開会挨拶: 17:10 高橋 哲郎 キャリア支援センター長

以上

	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度
参加企業・団体数	55	42	108	116
講演会参加人数	83	80	145	145
情報交換会参加人数	未実施	未実施	130	132

【評価と今後の課題】

令和2年度にコロナ禍に初の試みとしてオンラインを利用したリモート講演会を開催したが、開催案内を配信する時期に富山市が「まん延防止等重点措置」の適用区域となり、令和2年度に続きオンライン開催となった。

それに伴い情報交換会は未実施であった。そのため、参加人数は対面での開催時に比べ減少している。

そのため、令和4年度は新型コロナウイルスの感染状況に左右されるが、対面での開催を計画していく予定。

【実施計画】

- ②「学内企業研究会」の講師関連、発送先リスト作成、案内発送、会場準備、報告書作成等。
運営に関する業務。

「学内企業研究会」(計画段階)

1. 目的：学生が「業界」や「業種」について研究し、企業の採用計画・採用試験日程などを採用担当から直接情報収集することで、以降の就職活動を円滑に行えるようにすることを目的とする。
2. 日時：令和4年2月14日(月)・15日(火) [2日間] 13:20～16:00 (企業受付開始 12:30～)
3. 会場：富山国際大学 東黒牧キャンパス 厚生棟
4. 方式：ブース形式による説明 (1回あたり20分間の説明を6ローテーション実施)
5. 対象者：令和4年3月卒業、4月就職希望者約130名 (子ども育成学部一部含む)
6. 内容：
 - ① 開会挨拶 (高木学長)
 - ② 各ブースにて事業内容や採用計画についての説明を受ける (25分×5回)
 - ③ 企業と教職員との情報交換(随時)
 - ④ アンケート記入
 - ⑤ 閉会挨拶 (高橋キャリア支援センター長)
7. 学生への事前説明会
日時：令和4年2月2日(水) 14:00
場所：東黒牧キャンパス 大講義棟Ⅰ
内容：キャリア支援講座後期試験終了後、企業研究、事前教育・諸注意等を伝達

【実施内容】

例年、企業の採用担当者を学内に招き、対面で開催している企業研究会だが、令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大(第6波)を受け、初めてオンライン開催となった。計画当初は、対面での開催を予定していたが、就職活動を控えた学生や企業担当者の方々への感染リスクを考慮し、急遽オンライン開催となった。

- ・令和4年2月14日(月) (参加者企業 52社、参加学生 131人参加)
※ 1人5社企業訪問をすることを指導
- ・令和4年2月15日(火) (参加者企業 53社、参加学生 130人参加)
※ 1人5社企業訪問をすることを指導

【評価と今後の課題】

令和2年度はコロナ禍においても北陸三県の大学で唯一本学のみが早くから学内就活イベントを対面で実施すると学外に周知したが、今年度は8月に富山市が「まん延防止等重点措置」の適用区域に指定されたこと、令和4年の年明けから急激な感染拡大により、対面での開催を諦めざるを得なかった。そこで、初めての試みとして短期間で対応したため、不安な状態での開催であったが、所属や部署に関係なく、多くの教職員が協力してくれたため、無事に開催でき、運営もスムーズであった。協力企業からも運営面において、柔軟に対応してくれたと評価いただいた。今回、オンライン開催のノウハウを得たので、令和3年度は対面での開催を計画する予定であるが、状況に応じてオンライン開催の準備もしておく必要がある。ただし、課題として、開催形態の変更に迫られた際にできるだけ早く判断して協力企業に伝えなくてはならないため、判断基準を検討しておく必要がある。

(5) 学生相談に関すること

【実施計画】

- ・カウンセラー・支援委員の来校日の調整及び保護者相談会に関する業務。
- ・学生個々には、求人票・ガイダンス情報の案内、送付状やお礼状の書き方指導等を行い、「進路登録カード」には相談内容や受験先・証明書発行先など就職活動状況を記載する。
- ・尚、子ども育成学部でも独自の学生相談業務を行っている。

【実施内容】

- ・学生の子約(予約表で管理する)
 - i. 原則週4日間実施し一人に対して45分～50分相談。

- ii. 内容については、進路登録カードデータに記載し個人データとして共有する。最近、発達障害のある学生が増えてきており、保護者を含めた面談が増える傾向にある。また、自立できない学生が増えてきている。
- iii. 予約の際は、カウンセラーと相談して、なるべく多くの学生が受けられるように配慮し相談受付をする。

【履歴書・エントリーシート・模擬面接指導】

- ・富山新卒応援ハローワークから、月2回(第1・第3木曜の午後130分間)相談員が来校し、学生の就職活動に関する相談や求人情報の提供、履歴書添削、面接練習などを指導。
- i. コーディネーターとして、キャリアカウンセラー資格者1人・元民間企業人事担当者1人の協力体制の下に、相談(企業情報)・指導(履歴書・エントリーシート・模擬面接指導)をする。内容によっては、ゼミ担当、キャリアカウンセラーと情報交換しながら実施する。
- ii. 事務職員は、学生がカウンターに来たら、相談(企業情報)・指導(履歴書・エントリーシート・模擬面接指導)の予約を受け付ける。内容によっては、ゼミ担当、キャリアカウンセラーと情報交換しながら実施する。
- iii. 3・4年次生の学生を対象に、就職に苦勞をする学生の保護者をリストアップして、保護者相談会を金曜、土曜に設定し実施。センター長と実施時期を相談して、臨機応変に実施する。(8月)
- iv. 該当保護者に開催通知発送 → 相談時間を調整 → 情報収集
- v. 総務課で、相談内容のアンケートを実施し、就職相談要望の保護者と面談する。(6月後援会総会時)
- vi. 教務課で、相談内容のアンケートを実施し、就職相談要望の保護者と面談する。(10月保護者懇談会時)

【評価と今後の課題】

- ・コロナ禍により、オンラインでも面談を実施できる体制にした。今後は、学生は自宅からでも支援を受けられる体制を強化していく必要がある。
- ・コロナ禍により後援会総会、保護者懇談会も対面で開催できなかったため、学生のみならず保護者への情報配信をもっと活発化していく必要がある。そこで、就職活動が進まない学生の保護者に限らず、就職活動を控えた3年生の保護者を対象として、学生の就職活動前に懇談会を開催する方向で今後検討を進めていく。

(6) 企業訪問・新規開拓に関すること

【実施計画】

- ・就職先内定お礼訪問、新規開拓企業訪問を夏休み期間に行う。
- ・内定企業にお礼に行く際には、次年度の採用計画も聞いてくる。
- ・インターンシップ受入企業先への挨拶は新型コロナウイルス感染拡大により職員が中心に訪問する。
- ・就職アドバイザー(民間企業人事経験者)が新規企業開拓を担当し、すでに付き合いのある企業は職員が担当。
- ・緊急対応企業(内定辞退等)については、センター長、ゼミ担当教員、職員が必要に応じて対応する。
(基本的には、学生に謝罪に行くよう指示。後日大学からも謝罪のため訪問。)

【実施内容】

- ・重複内定をする学生が増えており、内定を辞退する企業に対して、誠実に対応するよう指導し、場合によっては、直接謝罪に行くよう指示している。そこで、複数から内定を獲得した際には、必ず1社のみとして、優先順位を付けて行くよう指示した。この一連の指導については、次年度以降の後輩学生の就職活動に悪影響を及ぼさないための措置として、特に重要視している。
- ・新規開拓等について
 - i. 新規採用いただいた企業より、本学の学生を採用したいと求人依頼があった。
 - ii. 採用を拡大した企業にアプローチし、学生の内定に繋げた。
 - iii. 情報系、英語を活かせる就職先企業を開拓していった。
- ・緊急対応企業(内定辞退等)
学生が内定辞退した企業の対応には、特に配慮している。
そのため、学生に対しては辞退の際に誠実に対応するよう指導している。
また、企業によっては教職員が直接謝罪に訪問しているが、令和3年度は謝罪のための訪問はなかった。

【評価と今後の課題】

令和2年度はこれまでの「売手市場」と言われる就職活動戦線から一気に急降下し、特にサービス業を中心にコロナ禍により採用活動を行われなかった企業や、採用数を減らした企業もあった。希望する業種や企業の求人が無くなった際の業種選択や求人検索などの支援については、引き続き検討していく。

(7) インターンシップに関すること

【実施内容】

- ① 令和3年度もコロナ禍により、例年より研修プログラムの公開が遅くなった。また、一番インターンシップが実施されるお盆明けから9月中旬にかけての期間に、富山市が新型コロナウイルス「まん延防止等重点措置」の適用区域となったため、富山市役所をはじめとする複数の企業・団体がインターンシップを取り止め、もしくは対面式からオンライン開催に変更となった。
- ② コロナ禍で就職活動が不安な学生も多かったこともあり、現代社会学部の参加人数は増加した。
- ③ 受入先には、受入条件確認書記載や研修時の日誌へのコメント、そして研修の評価を依頼した。昼食費・通勤費等については、学生の自己負担としている。研修期間中の事故に対応するため、学生負担による「学研災付帯賠償責任保険」への加入させている。
- ④ 受け入れに関する契約は、大学と企業間で『覚書』を締結し、学生は『参加確認書』を企業に提出した。

【評価と今後の課題】

富山市が新型コロナウイルス「まん延防止等重点措置」の適用区域となったため、単位認定に必要な5日以上の実習をする企業が減ると同時にオンラインによる研修も増えた。また、オンラインによる1day 職場体験が増えた。外出の自粛が呼びかけられたため、オンライン開催であれば自宅でも参加可能なため、気軽に参加する学生は増えた反面、本来の目的である職場体験が果たして実現されているかどうか意見が分かれるところであるが、自宅勤務やテレワークも増えている現状から、オンラインによる研修も1つの就業形態であるという意見もある。確実に言えるのは、対面でもオンラインでも企業との接点の機会を持てる点、企業研究が出来る点を考慮すると形態にこだわらず、今後も参加を推奨していく方針である。ただし、対面式の研修に参加した方が就業体験という点ではメリットが大きいと考えられる。

(8) 研修プログラム

研修プログラム(実習内容)は企業が決めている。特にコロナ禍においては、オンラインとの併用やオンラインのみという企業も増えている。基本的には、企業のプログラムに関心のある学生が参加を申し込むため、企業のプログラムに従って研修を受けるよう指示している。単位認定に関しては、学生の不利にならないよう配慮している。

【評価と今後の課題】

令和3年度は、毎年一番インターンシップが実施されるお盆明けから9月中旬にかけての期間に富山市が新型コロナウイルス「まん延防止等重点措置」の適用区域となったため、中止となる企業やオンライン研修に切り替わった企業もあったが、単位認定に関しては柔軟に対応した。

1day インターンシップについては、今後参加が増える傾向にあるため保険等の確認をしてから参加させる。

ただし、2020年3月の時点では、大学と経団連が「1Day インターンシップは認めない」とする意見を発表している。これは、「1Day インターンシップ」と称して、会社説明会を行い、採用活動を先行して行なっていた企業があったためであるが、今後就活の早期が進んでいく際には、当然名称を変更して継続していくことが安易に予想できる。そのため、単位認定型インターンシッププログラムというより、就職活動の一環としての意味合いが強いため、区別して考える。

(9) 大学コンソーシアム富山に関すること

富山県内7高等教育機関に所属する学生を対象とした県内企業の訪問研修を立案・企画の実施(県事業)。
毎年夏休み期間の9月上旬に実施している。

【実施計画】

①事業概要

本事業は、県内の7高等教育機関に在籍する学生が合同で県内企業等を訪問し、実際の就業現場を見、そこで働く人々の声を聴くことで県内企業等の魅力を知るとともに就業意識の向上をはかる。また、企業等を訪問するだけでなく、事前・事後学習を通して自らのキャリア・デザインに主体的に取り組むことを目的とする。

事業名：大学コンソーシアム富山 合同企業訪問

実施機関名：国立大学法人 富山大学に本部を置き、県内7高等教育機関で実施

開催日時

令和3年9月7日(火) 13時15分～16時30分(コース別ミーティング)

令和3年9月9日(木) 9時15分～17時(職場訪問研修)

令和3年9月10日(金) 9時15分～17時(職場訪問研修)

開催場所： 事前研修及び訪問バス発着場所

国立大学法人 富山大学 五福キャンパス 共通教育棟（富山県富山市五福 3190 番地）

②実施内容

8月20日(金)～9月12日(日)の期間に富山市が新型コロナウイルス「まん延防止等重点措置」の適用区域となつたため、直接訪問することができなくなり、オンライン開催となった。そのため、以下の内容は

- ・マナー講座及びコース別ミーティング：令和3年9月7日（火）13時15分～16時30分

“職場訪問研修のためのビジネスマナー

終了後、コースごとに訪問企業について話し合い、質問事項をまとめた。

場所：富山大学(五福キャンパス)

内容：コースごとにバスにて各企業等（30社2機関）を訪問

- ・企業等職場訪問研修1日目：令和2年9月10日（木）9時15分～17時 8コース（16企業）

- ・企業等職場訪問研修2日目：令和2年9月11日（金）9時15分～17時 8コース（13企業・2機関）

内容は、Zoom を利用しコース毎にブレイクアウトルームに分かれて企業の説明を聴き、若手社員と交流。

本学参加人数

- ・学生41名 引率教員3名

【評価と今後の課題】

- ・これまでは現代社会学部3年生にはキャリア支援講座aで参加を課題としていた。しかし、コロナ禍により任意の参加としたため、参加人数は半数ほどに減少した。

- ・本学では、友人同士で申込みむせいか特定のコースに集中する傾向がある。

- ・公務員コースが人気のため、申込開始と同時にすぐに予約が集中してしまう。

これらの問題の解決策として、令和3年度は事前研修に参加できない学生は、企業訪問にも参加できず、各コース、一教育機関6名までの制限が設けられた。

6. 国際交流センター業務

(1) 学術交流協定校

令和2(2020)年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響があり、新たな協定を締結することはできなかった。

令和3(2021)年3月末現在、海外協定校は12カ国、25大学と1高校である。そのうち6カ国16大学とは交換留学協定を、2カ国7大学とは双方の学位取得可能となるダブルディグリー(2+2)協定を締結している。

次表は、海外協定校一覧である。

表1. 海外協定校一覧（12カ国、25校、令和3年3月末現在）

NO.	協定校名	国	地域名	締結日
1	ポートランド州立大学 (Portland State University)	アメリカ合衆国	オレゴン州 ポートランド	1999. 2. 10
2	レスブリッジ大学 (University of Lethbridge)	カナダ	アルバータ州 レスブリッジ	2016. 5. 26
3	サザンクロス大学 (Southern Cross University)	オーストラリア	ニューサウスウェールズ州リズモア	2013. 2. 6
4	ラトロブ大学 (La Trobe University)	オーストラリア	ビクトリア州 メルボルン	2004. 4. 20
5	EMBA: Ecole de Management de Bretagne Atlantique (旧 ISUGA)	フランス	フィニステール県カンペール	2002. 7. 15
6	国立ウラジオストック経済サ ービス大学	ロシア	ウラジオストック	2005. 10. 12
7	ファーイースタン大学 (Far Eastern University)	タイ	チェンマイ	2008. 2. 18
8	中国海洋大学	中国	山東省青島市	2004. 7. 1
9	鶴崗師範高等専科学校	中国	黒竜江省鶴崗市	2011. 9. 26

10	大連海洋大学	中国	遼寧省大連市	2006. 9. 12
11	南通大学	中国	江蘇省南通市	2013. 12. 31
12	ハルビン理工大学(栄成学院)	中国	山東省栄成市	2014. . 5. 14
13	遼寧師範大学歴史文化旅遊学院	中国	遼寧省大連市	2010. 12. 2
14	鞍山師範学院	中国	遼寧省鞍山市	2016. 6. 6
15	聖公会大学校	韓国	ソウル特別市	2005. 3. 22
16	大邱大学校	韓国	慶山市	2007. 3. 23
17	大邱韓医大学	韓国	慶山市	2017. 1. 14
18	ラーチャモンコン工科大学	タイ	ナーン県	2017. 5. 1
19	マルタ大学 (University of Malta)	マルタ	イムシーダ	2017. 12. 11
20	セントラルフィリピン大学 (Central Philippine University)	フィリピン	イロイロ	2017. 1. 31
21	オデッサ大学	ウクライナ	オデッサ	2018. 5. 11
22	信陽師範学院	中国	河南省信陽市	2019. 3. 1
23	サセックス大学	イギリス	サセックス州ブライトン	2019. 3. 14
24	ミズーリ州立大学	アメリカ合衆国	ミズーリ州ケーブジャラード	2019. 5. 16
25	瀋陽師範大学	中国	遼寧省瀋陽市	2019. 9. 5

(2) ダブルディグリー(2+2)協定校

中国の6大学および韓国の1大学との間でダブルディグリーを与える協定が交わされている。この協定に基づいて毎年春と秋に3年次編入生として入学している。平成24(2012)年～令和2(2020)年の累計は35名になった。令和2(2020)年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により入学者はゼロとなった。

- ① 大連海洋大学 (中国)
- ② 南通大学 (中国)
- ③ ハルビン理工大学栄成学院 (中国)
- ④ 鞍山師範学院 (中国)
- ⑤ 大邱韓医大学 (韓国)
- ⑥ 信陽師範学院 (中国)
- ⑦ 瀋陽師範大学 (中国)

(3) 日本語教育機関との学生受け入れ協定

令和2(2020)年度末、受け入れ協定校は、以下の日本国内の専門学校4校である。

- (1) 富山国際学院 (富山県)
- (2) アリス国際学院 (石川県)
- (3) 長野国際文化学院 (長野県)
- (4) 丸の内ビジネス専門学校 (長野県)

(4) 海外留学・海外研修参加者

2021年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、Jasso奨学金制度の採択による4つの海外研修プログラムが中止となった。中止となったプログラムは表4のとおりである。

2020年度はオンライン留学が計10名、そのうち現代社会学部 英語国際キャリア専攻生の9名がアメリカ ミズーリ州立大学に参加、子ども育成学部からはカナダ レスブリッジ大学に1名が参加した(表3)。全員が英語圏への留学で、中国、韓国への留学はいなかった。

2021年度は、現代社会学部 英語国際キャリア専攻生の6名がアメリカ ミズーリ州立大学へ留学した。

表2. 学部毎の海外派遣学生数

留学	7		11		8		9		6	
	7	0	9	2	8	0	9	0	6	0
インターン シップ	1		2		3		1		0	
	0	1	2	0	2	1	0	1	0	0
研修（教員引 率）※	73		85		46		0		0	
	47	26	69	16	31	15	0	0	0	0

表3. 海外留学派遣国内訳

新型コロナウイルス感染拡大のため、従来多かった夏休み期間中の海外留学派遣は実施できず、今後はこのような情勢の中でできる範囲で海外留学、海外研修を促す。

表4. JASSO 奨学金に採択されたプログラム一覧 (2021 年度)

表5. 海外研修プログラム参加者数[illegible]

カナダ (〃)	9	0	9	0	0	0	0	0	0
マルタ (〃)	8	6	2	0	0	0	0	0	0
タイ/マレーシア (〃)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
デンマーク (環境専門研修)	7	5	2	0	0	0	0	0	0
シンガポール/オーストラリア (経営情報)	6	6	0	0	0	0	0	0	0
インターンシップ (カナダ/ベトナム)	3	2	1	0	0	0	0	0	0
ゼミ研修	9	9	0	0	0	0	0	0	0
研修合計	49	33	16	0	0	0	0	0	0

表6. 中止になったプログラムとその理由

プログラム名	中止理由
異文化研修 (各国) 前・後期	新型コロナウイルス感染症拡大のため
グローバルキャンパス (観環境デザイン専攻) 前・後期	〃

(5) その他のグローバル人材育成の取り組み (英語力を高める取組み)

① チェルネット

クラウド型英語学習教材スーパー英語を私立大学改革総合支援事業経費で平成 29 (2017) 年度に導入し、在学生全員及び教職員の希望者が経費負担無く使えるようになっている。

令和 3 年度は、現代社会学部のログイン率が 1 年生 19%、2 年生 6%、3 年生 1%、4 年生 3%、子ども育成学部が 1 年生 0%、2 年生 3%、3 年生 0%、4 年生 0%という状況である。両学部とも利用率が低い理由の一つに使い勝手が悪い点が挙げられる。利用率を上げるためにどのようにしていくかが、今後の課題。また、全学年に対し積極的な働きかけを行う必要がある。利用率とその効果を高める努力が必要である。

② TUINS English Camp 2021 の実施

2021 年度の参加者は 15 名 (現代社会学部 7 人、子ども育成学部 8 人) であった。

実施日: 8 月 7 日・8 日 (土・日)

場 所: 大学コンソーシアム富山 研修室 1 (富山駅前 CiC ビル 5F)

活動内容: (1) English lessons

(2) Introduction to Vietnam and others

(3) Class discussion

③ TOEIC 受験の促進

現代社会学部、子ども育成学部共に正規授業として TOEIC の授業を開講して受験の備えを行っている。また、本学学生のための TOEIC 団体テスト (TOEIC IP) を 12 月 20 日(日)に実施した。本来、1 年次で 470 点以上、2 年次で 600 点以上、3 年次の終わりまでに 730 点を超えることを目標に設定し、これらを超える得点となった学生には報奨金を与える制度を設けている。

④ TOEIC IP テスト (on line) 受験者数と結果

新型コロナウイルス感染症拡大の減少傾向により、第 1 回目を 8 月 9 日(月)～8 月 15 日(日)に実施し、2 回目を 2 月 19 日(土)～2 月 22 日(火)に実施した。受験者は計 9 名 (現代社会学部生 7 名、子ども育成学部生 2 名) で、最高スコアが 975 点、最低が 285 点だった。470 点以下が最も多く、600 点以上は両学部合わせて 4 名、730 点以上は 2 名であった (表 7)。

表 7. TOEICIP テスト全学及び学部ごとの集計結果

	全学	現社	子ども	全学	現社	子ども	全学	現社	子ども
試験日	2019/11/30			2020/12/20			2021/8/9・2022/2/14		
受験人数	8	3	5	19	14	5	9	7	2
～470	6	6	6	11	6	5	3	1	2
470～599	1	1	0	3	3	0	2	2	0
600～729	1	0	1	2	2	0	2	2	0
730 以上	0	0	0	3	3	0	1	1	0

800 以上	0	0	0	0	0	0	1	1	0
平均点	424	377	103	479	507	330	550	615	320
最高得点	710	505	710	785	785	455	975	975	335
最小得点	275	275	345	305	330	305	285	285	306

(6) その他語学関連の取組み

- (1) English Café では 580 名の利用があった。(前期、対面授業が減ったので、前年度より 20 名減。)
- (2) 副専攻プログラム「グローバル人材育成プログラム」3 名(現代社会学部 2 名、子ども育成学部 1 名)がプログラム修了証書授与。

(7) チューター制度の実施

日本人 3 名、留学生 1 名がチューターとなった。日本人チューターは基礎日本語や日本語補習授業に参加して会話練習の補佐を行った。休み時間中に日本語以外の授業のノート指導をする学生もいた。留学生チューターは、母国語の授業に参加して担当教員をアシストした。このようなチューター制度をとおして、留学生と日本人学生の交流が深まることを期待している。

表 8. チューター参加者 2021 年度

番号	性別	国籍	番号	性別	国籍	番号	性別	国籍
1	男子	日本	2	男子	日本	3	女子	日本

(8) 国際化への取組み

海外大学との教員人事交流は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止となった。教職員のグローバル化に向けた取り組みとして例年実施していた英語で対応するための SD 研修会も新型コロナウイルス感染対策として中止となった。

(9) 成果と課題

- ① 学生、教員のグローバル化を目指した取り組みを行ってきた。新型コロナウイルス感染拡大は本学にも計り知れない影響を及ぼしたが、学部教育では英語教育の充実、オンラインでの英語講座の試行など可能な限りの施策を行った。
東黒牧キャンパスでの English Café では前年度とほぼ変わらない参加者数を維持し、学生達が英語で交流することもしばしば見かけるようになった。これは関係教員の働きかけによるところが大きい。これを教員たちの手から、徐々に学生たちの自主的な活動になるような仕組みづくりをする必要がある。
- ② 海外派遣学生数を増やす方法のひとつとして JASSO 奨学金に採択されるよう国際交流センター教員を中心に努力した。その結果、4 つのプログラムが採択され 51 名分の奨学金を確保することが出来た。
今後も学生にとって魅力的かつ催行可能で、JASSO に採択されやすいプログラムとするよう、普段の見直しは必須である。項目として検討すべきである。また、採択された場合、早急な実施計画立案・催行、単位認定が必要と考えられる。
- ④ グローバル副専攻は現代社会学部から 1 名のみの認定となった。語学基準がハードルとなっている。1 年生にこの制度の意義を説明し、早くから目標を持って取り組むよう働きかけることが重要である。学生による海外研修や留学報告などを開催するなどして、多くの学生に動機づける必要がある。
- ⑤ 新型コロナウイルスの影響を考慮しても、留学生の入学者が減少傾向にあり、今後、危惧される。コロナ後を見据えた長期ビジョンに立った戦略が必要である。
 - 学部 1 年生：国内の協定校との関係強化を図る。学生に対する説明会の開催や必要な便宜許与。早期の就職・進学等進路説明も考慮する。
 - 編入 (2+2)：重点校との関係強化。交換留学や教員交流の在り方を再検討し、受験者を確保できそうな協定校にサービスを集中する。先輩後輩の関係性も重視し、南通大学、信陽師範学院、瀋陽師範大学である。

(10) 外国人留学生受入数 (交換留学生を含む)

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、入国が著しく制限される状況にあったため、正規生の新規受け入れはなかった。

表 9. 年度別外国人留学生受け入れ数（年度別入学者数）

入学年度	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
学部 1 年次入学	20	25	19	10	16	11	8	6	9	6	5	0	0
編入学（2+2）	0	0	0	4	2	2	1	9	9	2	6	0	2
交換留学	17	14	15	17	15	10	9	14	19	22	22	0	0
研究生	8	7	7	0	8	5	0	3	2	1	2	1	0
留学生入学者総数	45	46	41	31	41	28	18	32	39	31	35	1	2

(11) 留学生の進路（2022 年 3 月卒業生）

2021 年度の学部卒業生は 9 名、県内就職は 4 名、帰国者が 1 名であった（表 10）。

表 10. 留学生進路（学部卒業生）

No.	性別	出身国	進路
1	女子	中国	高岡 「iBPS 株式会社」
2	男子	中国	富山大学院 人文社会芸術総合研究科
3	男子	中国	富山 「株式会社不二越」
4	男子	ベトナム	富山 「レインボー貿易」
5	男子	ベトナム	富山 「扶創国際研修協同組合西出張所」
6	男子	ベトナム	大阪 「イデアホールディングス」
7	男子	中国	富山大学院来年度受験希望 日本滞在中
8	女子	中国	東京 「株式会社 THKS」
9	女子	中国	帰国 北京 軟通電力

(12) 2021 年度 留学生教育について

学年別留学生在籍数

期・国籍 学年	前期	中国	韓国	ベトナム	ネパール	後期	中国	韓国	ベトナム	ネパール
1 年次生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2 年次生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3 年次生	4(2)	2(1)	0	(1)	1	4(2)	2(1)	0	(1)	1
4 年次生	9(3)	6(3)	0	3	0	6	6	0	3	0
合計	13(5)	8(4)	0	3(1)	1	10	8(1)	0	3(1)	1

※1 ()は編入 2+2 の学生

※2 2021 年度在籍非正規留学生（全て交換留学生）は前期のみ 6 名（中国 5 名、韓国 1 名）

奨学金受給状況

奨学金名	金額（月額）	受給人数	
		前期	後期
富山国際大学奨学金	2 万円 ※1	4	1
富山県国際交流奨学金	5 万円 ※2	3	3
JASSO 学習奨励費	4 万 8 千円 ※3	0	1
朝日国際教育財団	10 万円	1	1
朝日国際教育財団	3 万 5 千円 ※4	4	4

※1 富山国際大学奨学金（2 万円）は協定校からの入学者のみに支給（対象外は前後期共 3 名）

※2 富山県国際交流奨学金（5万円）受給者のうち1名は協定校外の学生

※3 新型コロナウイルス感染症等の影響による経済的理由により、後期に追加募集1名×6か月分あり。

※4 前年度からの継続支給者。

- 宿舍別入居状況： 大学が民間アパートを借り上げ、前期3室、後期1室を留学生に提供している。4名の学部生が利用している。その他、ほとんどの外国人学生が東黒牧キャンパス近くのアパート又は富山市内の民間アパートを利用している。

実績と課題

在籍している13名の留学生は、海外4カ国の協定校と日本国内にある日本語学校から進学してきた学生である。本学の海外協定校の数が増えることにより、受け入れた留学生数も年々増えていたが、2021年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により減少した。本学は近くにある民間アパートを部屋ごとに借り上げて留学生に宿泊の便宜を提供していたが、通学の利便性、留学生同士の交流や友人関係づくりにプラスになっている。生活上の困難があったら、すぐそばに友達がいるので、お互いに助け合える。このことから留学生の大多数は、概ね安心、且つ充実した留学生活が送られている。その点においては、留学生派遣側から評価を得ている。

最近、交換留学生の数が増えられるとともに、大学近くにあるアパートの部屋が不足する状況になってきたため、各協定校に人数制限依頼をおこなっていたが、上述したとおり、2020年度はそのような制限に至る状況ではなかった。

ここ数年来、正規留学生の質がよくなり、その能力が高く評価され、2021年度には6名が日本で就職（うち県外就職が2名）することになった。

残念ながら、日本語能力が低い留学生も存在するので、今後さらなるきめ細かな指導と温かい支援をし続ける必要がある。留学生それぞれの勉学意欲と日本語のレベルが相変わらず大きな差があるのを認識している。これらを踏まえて、今後もいろいろな面での厳しく、かつ多様な指導が求められる。

また、国によっては、税制面で手厚い保護を受けられない留学生も存在し、彼らへのサポート体制の構築も課題と言える。

(13) 日本語教育の現状

留学生に早く日本での生活に慣れてもらい、大学での勉強についていけるように、そして将来国際社会に有用な人材になってもらうために、留学生に対して日本語の教育に力を入れてきた。1年次入学時にプレースメントテストの成績によりクラス分けをして日本語の教育を行っていた。

① 通常の日本語クラス

留学生を対象にした日本語のクラス

上級日本語演習Ⅰ（週1回）

日本語総合演習Ⅰ（週1回）

- ② 通常の日本語補習の授業以外に、銭輝支援員・湯教授、キャリア支援センター事務職員により日本語や生活、卒業後の進路などの指導が随時に行われた。

実績と課題

新カリキュラムのシステム導入後、卒業までに日本語能力検定試験N1を取らないと進学・就職が難しいという意識が留学生の中で根着いてきた。各自が日本語の習熟度によって、自主的に検定試験を受けるようになり、7月度と、12月度の試験の2回の機会が復活した。昨年度の試験の把握状況は次のとおり。

日本語能力検定試験 各学年の合格者数：

2021(前期)				2021(後期)		
学年	在籍数	N1 人数	N2 人数	在籍数	N1 人数	N2 人数
1 年	0	0	0	0	0	0
2 年	0	0	0	0	0	0
3 年	4	3	0	4	3	0
4 年	9	2	5	6	1	4
計	13	5	5	10	4	4

2021年度はウィズコロナの社会的風潮に向かっており、日本語検定試験N1に合格して卒業するという目標

が定着しつつある。これから、留学生の日本語レベルをいかに高め、実践的に使用できるものにするかを本学の課題とし、専任・非常勤教員の日本語授業の担当者、関係事務職員との緊密な連携及び情報交換の下、授業改善、留学生生活指導に力を入れていかなければならない。

(14) 留学の生活指導

留学生を対象にする錢輝支援員による個別指導と支援を随時行った。必要に応じて特別教養演習も実施された。

内容は、日本語の勉強、日本の文化、伝統、生活習慣、日本の礼儀作法など、強制ではなく、自由参加の形であるため、参加者人数が多い時と少ない時もあった。そのほかに、留学生の悩み、困ることについての相談、遵守すべき規律、守るべきルール等の指導とアドバイスも随時行われていた。

実績と課題

授業のほかになるべく日本の地域社会あるいは日本人との触れ合いできるチャンスを与えようと上記の体験活動を実施し、イベントを企画する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、断念せざるを得なかった。

コロナ禍の中ではあるが、より充実した留学生活を送ることができるように留学生一人ひとりが日本人と触れ合い、友達を作り、積極的にコミュニケーションが取られるように努力をしてもらいたい。卒業後に日本社会や母国に貢献する有用な人材になれることを願っている。

今後、緊急時期、非常時期の留学生管理が大変重要な課題として看做さなければならない。いざという時に迅速かつ正確な対応ができるよう努めなければならない。